

雄 峯

第61号



TOKYO FUJI UNIVERSITY
東京富士大学校友会

建学の趣旨

国家の前途と人類の将来は青年の優劣によつて決せられる。青年学徒はその使命の重大なるを痛感して常に至誠立つ指導者たるの修練に努めねばならぬ。

我学園は「人道による世界平和」の理想の下に時代を拓かんとする人材を養成せんとするものである。而してその構想は

一、大愛の涵養に努むること

即ち万物育成の大自然愛を養ひ諸民族の解放と和親を図り万邦の協和に貢献すること

一、正義の顕揚を図ること

即ち各々生存の自由と人格の尊厳を重んじ進んで自らの義務を完遂して億兆協力の実を挙げることに

一、文化の向上に資すること

即ち常に人類の幸福を念とし各々その能力を最大限に發揮して更に万象の特性を活かして天地の繁栄を図ること

以上は我学園の設立の趣旨にして我等の日夜遵守すべき原則である。而して我学園の理想たるこの「人道世界の建設」は我民族の理想に一致し、更に人類の理想に合致するものと思惟せらる。もとよりその実現は人間性の一変せざる限り永遠の努力を必要とするものではあるが、この事は人間社会の無限の発展を意味し又我学園の理想の高遠なる所以を示すものである。

我々は困難ではあるが光榮あるこの大道を全人類と共に進み斯くして人類に光明を与へ常に希望ある世紀を拓き以て負荷の大任を全ふせんことを誓ふものである。 以上

昭和二十二年四月

東京富士大学校歌

高田勇道／作詞・作曲

一、春爛漫の夢さめて

匂える花の移ろえば
世は盛衰を嘆けども
至誠の矜厳かに
文化の流れ拓かんと
破壊の嵐吹きすさぶ
曠野を進む若人の
燃ゆる眸に希望あり

二、興亡くらき人類の

歴史の波瀾たけれども
見よ東雲の黎明に
世紀の鐘の音高く
挙りて謳う大き世を
四海の人に語らんと
時代に起てる若人の
守る使命に力あり

三、ああ海原の空広く

精神は清き民族の
明日の道にそなえんと
この学舎に集いして
久遠にかおる建設の
理想を高く仰ぎつつ
すぐりて結ぶ若人の
固き誓いに光あり

雄 峰

第61号

C O N T E N T S

● 建学の趣旨／東京富士大学校歌・目次	2
● あいさつ	
雄峰第六十一号発行に寄せて	
卒業生に贈る会長言葉	
● 特集第55回富士祭公開研究討論会	
「渉沢栄一自伝『雨夜譚』について」報告者	
コメント	二上映子 3
コメント	八城一夫 4
コメント	八城一夫 5
コメント	林 祐二 7
コメント	本間玲次 9
● 校友会 第七三回定期総会 講演会報告	
司会進行輔佐	
● 東京富士大学に学ぶ	
「学友会会長を務める」	
「私の大学での四年間とは」	
「コロナ禍だから出来たこと」	
「大学院進学動機」	
● 支部支会報告	
少林寺拳法部雄峰会活動報告	会長 本間玲次 20
雄峰マネジメント研究会	会長 森川 昇 20
● 叙勲瑞宝及光章受賞報告	
● 新役員紹介	
事業部長	関 實 22
事務局次長	大泉浩三 23
常任理事	坂下尚樹 23
常任理事	鴨下一 23
常任理事	曾田敏彦 23
常任理事	小荷田政史 23
会計監事	高橋節男 23
常任理事	奥山飛雄馬 24
常任理事	林 祐二 24
常任理事	江藤かすみ 24
常任理事	大沼洋子 24
常任理事	岩中多枝子 24
● 行事録・校友会事業計画	
令和4年度学園行事	25
令和4年度校友会事業計画	25
令和4年度校友会行事録	25
会計報告	26
● 校友会会則	
校友会事務組織・分担表	27
賛助寄付者一覧表	28
編集後記	29

雄峯第六十一号発行に寄せて

令和四年度 東京富士大学卒業の皆様

大学院修士課程を修了されました皆様

心よりお祝い申しあげます

新型コロナウイルス感染症パンデミックが長

引き経済が停滞して居り二〇二三年一月十六日

で国内初の感染から三年になりました

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻二〇二

三年二月二十四日急に開始して一年になろう

としています

日本では外国為替の異常な

円安による物価高

令和四年七月八日 安倍晋三



(六七才) 元総理が午前八時半ごろ奈良市で街

頭演説中に銃で撃たれ夕方ご逝去されました正

に激動の一年でした

令和四年度の卒業式を三月二十一日挙行いた

し、卒業パーティーも京王プラザホテルにて卒

業生と教職員で全員座席、テーブル十名のところ

六名として万難の対応で行う予定です

社会人になると学生時代と異なり人間同士の

コミュニケーションが一層複雑になって来ます

最も有害なものは虚栄です

指導を受けた教養をしっかりと身につけ心豊か

に心身共お大事になさってご活躍下さい

令和五年三月

東京富士大学・校友会名誉会長 二上 映子
学校法人東京富士大学 理事長

卒業生に贈る会長の言葉

東京富士大学校友会会長 八城 一夫



東京富士大学経営学部卒業の皆様、並びに大学院修士課程を修了された皆様おめでとうございます。同時に校友会に入会されましたことを心から歓迎いたします。私は第11代校友会会長の八城一夫です。新しい仲間ができましたことを、多くの校友会会員とともに喜びを感じております。本日この日を迎えられた皆様は、縁あって当学園で出会い、多くの友と学び、本学の卒業生となりました。今年がウサギ年です。ウサギは前に向かって飛び跳ねることから、飛躍や向上を表すと言われています。いつでも初めの一步を踏み出す時は、小さな不安と大きな期待が沸き起こるものです。人生はそんなことが重なり合い続いていくのではないのでしょうか。小さな不安は大学の教職員や学友との強い絆があったから乗り越え

えられたのだと思います。そして、学園での学びは知識となり、自信が芽生え将来の夢が生まれ、希望が膨らみ社会の一員となりました。この度のコロナ禍で、孤独なうちに勉学等のいろいろな悩み苦しみがあつたことと思いますが、最後まで志を持ち続けたことで卒業という日を迎えられました。これは皆様ご本人の努力はもちろん、陰で支えてくださったご家族の皆様の喜びであります。心よりお祝い申し上げます。また、卒業生の皆様には、コロナ禍で対面授業を受ける機会が少なくなり、オンライン授業に切り替わりました。先生方や学生の皆様が大変苦勞されたと思います。さらに、学友に会うこともできない状況であつたわけですが、この経験は決して無駄ではなかったと思います。この間、従来の働き方、教育の在り方が見直され、仕事の仕方も根本から見直され、これまで会社に出社して仕事をしていたことが在宅勤務に変わり、この流れは今後も進んで行くのではないかと考えられます。そのことにより産業構造の大きな変動が起こり、大学の授業についても、対面授業が基本だったわけですが、これがオンライン授業に変わり、コロナ収束後も、社会が大きく変化して、コロ

ナと共存していくことになるでしょう。

皆様はこのような激変した社会の中に飛び込んでいくことになり、企業が、企業は若い力に大きな期待を寄せています。力強く一步を踏み出してください。

これからは様々なことに会おうでしょう。その都度、考え悩み抜いたら恐れずに行動することが大切です。本学で学んだ知識を活かし、自信を持って行動をして、皆様一人ひとりの夢に向かって邁進してください。

皆様のご活躍を心からご期待申し上げます。

校友会会員になられた皆様へ
本年度校友会会員になられた皆様へ参考までに 1 校友会会則について 2 財政問題の取り組みについて 3 今年度定期総会ご案内について記載しました。是非皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

1 校友会の会則について

第3条(目的)
本会は、会員相互の資質の向上と親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的とする。

第4条(事業)
本会は、前条の目的を達成する

ために、次の事業を行う。

1. 各種研究会及び親睦会の開催
2. 会報の作成及び配布等

校友会の一員として、校友会活動に是非ご参加ください。また、すようお願ひいたします(詳細は大学のHPをご覧ください)。

2 財政問題の取り組みについて
平成30年度から始めました財政問題の取り組みについては、予算の関係上卒業年次より順次ご案内を差し上げることにしております。

3 総会案内はP 29に掲載してあります。

昨年度は、昭和49年50年の卒業生を対象に「賛助寄付ご協力のお願ひ」文を郵送しております。寄付金の総額は、別掲(P 29)の通りであります。今年度は昭和51年52年の卒業生を対象に郵送いたします。この取り組みはまだ始まったばかりですが、少しずつ成果が出てきております。「継続は力なり」の歩みの如く続けていきたいと思ひます。新会員の皆様はじめ全会員の皆様方のご協力ご支援をよろしくお願ひいたします。

(昭和49年 経済学科二部)
(平成16年 経営学部夜間主)

特集第55回富士祭公開研究討論会

校友会主催研究討論会報告

八城一夫



八城一夫

令和四年十月三十日（日）東京富士祭において、五号館第五三二教室で、「渋沢栄一の活躍を解く路」について研究討論会を開催しました。報告者は東京富士大学校友会会計人会会員の林祐二氏、パネラーには本間玲次元会長、大泉浩三事業部長、高橋節男会計監事の三名、司会進行に八城一夫、進行輔佐役に藤井直副会長の協力を願いました。

二〇二四年に発行される新一万円札の顔は「日本資本主義の父」渋沢栄一です。

○の企業の設立に関わり、約六〇〇の社会公共事業、福祉・教育機関の支援や民間外交にも熱心に取り組み、日本資本主義の父と呼ばれました。

渋沢栄一の数あるエピソードの中で、長野県佐久市にある内山峡という険しい峡谷に來たとき、詠んだ歌で『巡信紀詩』（じゅんしんきし）に収録されている。NHKの大河ドラマ『青天を衝け』の表題は若き日の栄一が詠んだ漢詩の一節が由来とされています。

「勢衝青天攘臂躋 氣穿白雲唾手征」

勢（いきおい）は青天を衝きて臂（ひじ）を攘（まくり）て躋（のぼ）り

氣は白雲（はくうん）を穿（うがち）て手に唾（つば）して征く

「青空をつきさつ勢いで肘をま

くって登り、白雲をつきぬける氣力で手に唾して進む」という意味です。

詩の後半では「一心に精進して神仙の世界を求める人、名利のために動く俗人、どちらに偏ってもいけない。その中間にこそ、人間としての本当の生き方があ

るのではないか」と主張している。こうした考え方が、後に渋沢栄一が提唱し、今の時代にも必要とされる「道德経済合一説」につながったかもしれない。

小泉村の名主で漢学者の木内方軒（きうちほうけん）のもとを訪ね、『論語』を学んだ。

『論語』を読み直した渋沢栄一は、孔子が公正な利益に基づく商業を推奨しているのを発見し、「論語と算盤」が決まり文句となりました。

ところで、彼の飛躍のきっかけになったのが明治維新前の一八六七年、パリで開かれた万国博覧会に、將軍徳川慶喜の名代で出席する弟昭武の随員としてフランスに渡ったことです。

当時のフランスは、第二帝政

のナポレオン三世の時代で、政府がインフラを整備し、会社を競わせながら、イギリスに追いつけと経済を発展させていました。それが明治の日本に合っていたのです。

渋沢栄一は一八四〇年、今の埼玉県深谷市の豪農の家に生まれ、七歳から従兄に四書五経を、父に商売を習います。従兄の尾高淳忠（じゅんちゆう）が水戸学に傾倒し、栄一に影響を与えました。

家業は養蚕と藍葉の耕作それに藍玉の製造と、その藍玉を上州、信州、武州の秩父地方の紺屋（藍染屋）への掛売商いでしたが、渋沢栄一はやがて藍葉を農家から買い取ることや、その藍葉が自宅の納屋で藍玉に加工されたものを上州西南部、信州東部、武州の秩父地域の藍染屋（紺屋）に掛売販売する仕事に就きました。

ある時、父の名代で代官屋敷に行くと、御用金として五百両持ってくるよう言われます。金をもらう者が威張っているのに激怒した渋沢栄一は、こんな社

会は間違っていると考えました。

そんなこともあって、水戸から伝わった尊王攘夷運動に共感した渋沢栄一は同志と討幕を目指します。高崎城を乗っ取り、横浜に出て外国人を殺して幕府を困らせようと思いますが、決行前夜にやめ、身を隠しました（一八六三年一〇月）。

その後、渋沢栄一は一橋家の家来になり、京都で慶喜に仕えます（一八六四年二月）。他方その一橋慶喜は一八六六年七月に徳川第一四代將軍家茂公の死去により同年八月徳川宗家の相続が決まり（一二月五日に征夷大將軍に任命）、將軍になったのです。

その一橋家で渋沢は勘定奉行の下で勘定組頭（この役職は「あたかも今日の大蔵次官の職掌であった」『雨夜譚』P一〇八）に任ぜられた。

会計事務の主任となっていたので、京都守衛総督の職任を十分に慶喜公が御尽力なさるには是非とも兵備が入用である。それにはまず歩兵隊を編制するが第一であると、重役黒川氏に

論じたところが、拝謁が許されたので、領地からの農兵募集を言上し、その提案の趣旨と、実現に向けての手続き上の要点を、「不慮慮」に言上、併せて、その御用は不肖ながら何卒私へ仰せつけられるように願いたい云々……。

その翌々日、さつそく歩兵取立御用掛をいい付けられた。そこで、さつそく備中に赴いて二〇〇人余、さらに播州、摂州、泉州から三〇〇人余の農兵募集の成功と、その歩兵編制を組み立てること。さらに、摂州、播州の年貢米の収納が兵庫の蔵元商人の取扱いに任せていたものを、代官に命じてその売捌の方法を、灘、西の宮の酒造家の酒の元米として入札払方式の直販売に改める。そのほかに播州木綿の物産化事業を成功させたことが挙げられます。

幕府顧問のフランス公使ロッシユからパリ万博への参加を求められた慶喜は、弟の昭武を派遣し、渋沢栄一に随行を命じました。

渋沢は幕臣に列することに

なったのですが、陸軍奉行支配調役（御目見以下）となったため、同年十一月には年内幕臣を辞して、浪人になる覚悟を決めたのであった。

そうした時、航海で渋沢栄一は、スエズ運河を造ったのが国ではなくレセップス社で、通訳に「株式会社」は国家をしのぐ金を集められると言われ驚き、株式会社の仕事に勉強しようと思えました。

フランスで渋沢栄一の世話役になったのが銀行家のフロリヘラルトで、渋沢栄一は彼からフランスの資本主義を学びました。

旅費で鉄道債を買い運用益を得てお金の流通も学び、フロリヘラルトが軍人と談笑しているのを見て、身分差のない社会に感銘しています。

また、徳川崩壊で帰国した渋沢栄一は大蔵省に出仕し度量衡の統一から統一貨幣の発行、

税金の米からお金への変更などに取り組み、銀行や証券取引所を作ります。

このような偉業を成し遂げた渋沢栄一について、今回はまず静岡藩でのところまでを考察することを通じて、その活躍の源泉を探究しようと試みました。

（昭和49年 経済学科 平成16年経営学部）



特集第55回富士祭公開研究討論会

「渋沢栄一」の活躍を解く路

「渋沢栄一自伝『雨夜譚』」について

報告者 林 祐一

渋沢栄一は第一国立銀行、日本銀行の創立に深く関わり、その他金融、保険、交通や通信、紡績といった分野で500以上の会社設立に関わったといわれています。その実業家としての一面も興味深いのですが、本書で語られるのはその幅広い生涯の中での端緒部分、生い立ちから大蔵省を退官するまでの経緯にわたります。

血洗島村（現埼玉県深谷市）の裕福な豪農の家に生まれ、読書・撃剣・習字などの稽古をする子ども時代から、祖父や父を見習って藍葉買付と藍玉掛売販売の為の藍染屋（紺屋）得意先廻りにて商才を発揮していく十代半ばまで。それから、尊皇攘夷を志して、仲間と企てた計画からあわや囚われの身になるかと思いきや、一転して京で一橋慶喜に仕えることに。パリ万博をきっかけに徳川昭武（慶喜の異母弟）のお守役の一人として欧州へ渡ったかと思えば、大政奉還で失意の帰国。

徳川宗家が維新政府から与えられた静岡藩に再出仕して、慶

喜の指揮下に入り、程なく、大蔵省に招聘されて数々の制度づくりにかかわるも、やむにやまらず職を辞する…。

まさに波乱万丈な人生でした。

・「何で渋沢をやるの」について

渋沢栄一は、誰でも知っている。けれども彼の生涯は九一年にわたり実質嘉永六年（1853年）数え元年一四歳から、昭和六年に亘って常に現役で活躍しておりまして、どこをどうやってもテーマとしてはまさに尽きることはなくて結局、渋沢という人がどのような人物であったか答えを出すことは容易ではありません。

戦後体制は世界的に動揺しており、ここで渋沢は何に自信をもって何を目指そうとしたのか、彼が社会に通用したと思われる根拠を、彼の実績のいくつかから探り、又、彼が残したと思われる課題、その彼が「出来なかった理由となぜそうだったのか」をこの辺りで考えてみることは極めて意義のあることと考えると取り組むことといたし

ました。

発表では下記の点について考察をしました。

（一）播州木綿（反物を）藩札買付にした。

○一橋領での物産化と領民の収入増への道を開き、正金の運用益も同時に挙げさせることを実現させました。

△成功の要因▽

・藩札発行について大阪商人の協力を得ることができた。

・一橋藩にすぐに正金を動かせる信用があった。

・トップと中間管理職の理解と同意と支援を受けることができた。

・渋沢の説明が信用を得るに足るだけの単純化、明瞭化されたものであった。

・進行手順と課題の提示が納得されるものであった。

・領民の理解と協力を得ることができた。

（二）フランスから帰国後、徳川宗家の所領静岡藩での活躍

○幕府の新紙幣（太政官札）五十三万両の藩への貸付金（十三

カ年賦）の大半を元本とし、これに地方（じかた）資本を合同

させて商社と銀行の機能を備えた「商法会所」を立ち上げ、渋

沢は頭取として、地方の商品化作物耕作で使われる、粕、乾鰯

（ほしか）、または油粕や糠など

の商品を、自らも東京に出張買付をしたり、大阪に米穀を買入れるため人を遣ったりするとともに、商人への商品抵当の貸付、および定期当座の預り金受入れなど、両部門で収益を上げて軌道に乗せました。

△成功の要因▽

・藩の勘定所の役人数名を掛員として、民間の商人の中の人材数名を選抜として付属させて、人材の選抜が適格であったと考えられます。

・肥料などの駿遠領内への貸付に際して、対象とする地方の需要見込の確さ、効率的な納品時期から逆算しての発注時期の確定とか、肥料銘柄の適合性等、農民の気持ちに即した営業が出来たのではないかと考えられます。

【渋沢栄一の特長】

①此方の資金力の及ぶ範囲を間違わない。

②押し売りをしない。値下げによる売上拡大を目指さない。

③良品な商品を扱い、求め、生産しようとする。

④身近に常に指導を受けることができる人が居た。それらの人への畏敬の念を持ち続ける習性があった。

⑤信頼しあった人達とは互いに連絡を取り合い、補い合う関係が続ける。

渋沢はとにかく先見の明があったということ。幕府の衰亡を悟り、それからの時代をどう生きべきかを考えていました。そのきっかけは青年時代、百姓身分だった渋沢に傲慢な態度をとる代官でした。そこで次のように悟ります。知愚分別のない人間が地方の領主や代官となり、自分は百姓の身分であるというだけで領主や代官の言うことに従うしかない。言い返せば事態はますます悪くなる。これでは自分は百姓などやつてはいられない。またこのような腐敗を許しているようでは、幕府は早晩衰亡するであろう。

このような考えに到達できたのは、四書五経などの読書によつて自分の価値観を確立していたということがあるのではないかと思えます。そのため、百姓であるがゆえに生じる身分の壁と、その理不尽さを痛感したのではないでしょう。あるいは世代の違いによるのでしょうか。渋沢の父は、自分は百姓として生きる、役人が無法であろうと従うのみだと考えていました。この違いが興味深いところです。

次に問題や改善点を見つけることが非常にうまいということです。一橋家に仕官した渋沢は、幕府が衰亡するであろうという先見に基づき、一橋家に必要な政策を提案

していきます。まず人材登用、歩兵取り立て、そして財政面で幕府から自立するために、米の販売経路の見直し、藩札発行（木綿取引の円滑化）などの政策を提案します。それからの時代を見据えた問題意識をもち、そしてそれに対する改善点を打ち出していたことがわかります。

その次に即断即決の人だということです。まずは、攘夷を唱え決起しようとしたことがその例です。幕府の衰亡という先見の明はありましたが、その解決策として攘夷という考えに至るや否や、親子の縁を切ることを求め、60人あまりの徒党を組んで決起を起こそうと決断します。これは仲間の説得されて中止しますが、実行していればその後の渋沢が挙げた多大な功績はすべて無かったことでしょう。あるいは、倒幕を志しておきながら、一橋家に転身することも決断する。ともに倒幕を志した渋沢喜作と栄一が、一橋家への仕官に際してこのような問答をしています。下記は前掲書からの引用

喜作「これまで幕府を潰すということを目的に奔走しながら、今日になってその支流の一橋家に仕官するということになれば、とうとう活路が尽きて糊口の工夫を設けたといわれるであろう。また人の

知る知らぬはしばらくおいてわが心に愧ずるわけではないか」

栄一「なるほどその通りに違いはない。ダガモウ一歩進めて考えてみると、ほかに好い工夫もない、首を縊つて死んだ所が妙でもない、（中略）なるほど潔いという褒辞は下るであらうけれども、世の中に対して少しも利益がない、仮命志ある人といわれても、世のために効がなくば何にもならぬ。」（P. 61）

この渋沢栄一の考え方はとても現代的だと思えます。誇りのために死んだところで世のためになるわけではない。誇りのために生きようとするれば、人に寄食したり、誇りという理由で正当化して強奪に及ぶしかない。まずは橋家に仕官し、誇りや真心というものはそれから示してゆくべきだということです。決断と行動の人であつたということと、そして礼儀や道徳を重んじる一方で実際の考え方の持ち主でもあつたということが、渋沢の転身からもよくわかります。

最後に「雨夜譚」という表題について説明しているところを引用しておきます。

「今はただ三十年あまりの、種々の事どもを想いめぐらせば、ゆめうつつのわきだになけれど、身に実歴せしものは、まのあたりの如く

おもわれて、忘れんとするも忘れがてなれば、さいころより、うからやからの請いのまにまに、すぎこしむかしたりを雨夜の徒然にうちいでしを、傍らにて筆記せしものありて、その水茎の跡いつしか数かさなれるをみれば、われながら千秋を経し、観あり、ついにこれを雨夜譚と名付けて、ひとつの冊子とはなしぬ」（P. 12—13）

【所感】

今回、富士祭での校友会「研究討論会」報告者を依頼されたとき恥ずかしながら渋沢栄一についての印象は今度の新紙幣に採用される方で実業家、資本主義の父という認識しか持っていませんでした。

なぜ渋沢栄一を取り上げるのかという問題提起のもとに「雨夜譚」を通して渋沢栄一という人物がどういった思いでこれまで激動の社会を生き抜いてきたのかを知る良い機会となつたと感じています。

発表にわたり、八城天校友会会長、平柳光事務局長、特に藤井直副会長には平日の夜遅くまで熱の籠つた指導をいただきました。本当にありがとうございます。また今回、機会を与えていただきました。ましてありがとうございます。

（令和2年 大学院修士課程修了）

特集第55回富士祭公開研究討論会

「渋沢栄一の活躍を解く路」

コメント

本間 裕次



本間 裕次

今回「渋沢栄一の活躍を解く路」として、報告者より詳細に渡り説明があり、渋沢栄一その人の辿った道については、ほぼ理解したつもりです。ただ説明の内容から疑問に思われるだろうと思う点を質問させていただきました。自分の考え方、行動で相反する様な事がある点です。

それは、二十三歳の時に関わった「高崎城乗っ取り計画」から考えて非常に強く尊王攘夷の思想を持っていたことが見えてきます。しかるに決起を中止した直後、若い有能な人材を探していた一橋家の場から徳川幕府を批判していたにも拘わらずです。

また、横浜の外国人居留地の焼き打ちを考えると考えていた渋沢は仕官した徳川慶喜が、十四代将軍家茂が病死したことを受け、慶応二（一八六六）年将軍に就き、その翌年に開かれる「第二回パリ万国博覧会」に、慶喜の弟で当時十三歳の昭武が将軍の名代として派遣される事が決まり、その世話役に選ばれ使節団の一員としてフランスに渡り、ヨーロッパ諸国を歴訪し、その文化等を学んでおります。渋沢

二十七歳の時です。これらの変わり身の早さは、幼い頃から教えを受けた師匠の尾高惇忠の影響が大きかったものと思われる。尾高惇忠は当時としては珍しく、「四書五経」をベースにしつつも「好きな書物を何でもいいから読め」という自由な教育方針だったことから、

渋沢は、「こういうものもあるんだ」「あれも知ろう、これも知ろう」というように様々な書物や考えに触れ、旺盛な好奇心、広い視野と柔軟さを身につけ、情報に対して敏感な人間に育っ

ていったものと思われる。

この旺盛な好奇心と柔軟さは、先ほどの高崎城乗っ取り計画だけでなく、後の欧州体験時代の行動から見て取れます。つぎにヨーロッパから帰国してから渋沢の行動を簡単に記したいと思います。

ヨーロッパから帰国後現地で学んできた知識をすぐ形にし始めました。静岡に蟄居していた慶喜の元に戻り、欧州で学んだ会社組織「共力合本法」を形にした「商法会所」を立ち上げた。この「商法会所」の事業が認められたことで、渋沢は明治政府に出仕することになり、日本の近代化を成し遂げていくための一つの方策として改正掛の設置を建言し、

渋沢は改正掛のまとめ役として、僅か二年の間に、実に二百件の企画を立案し、そのベースのほとんどを手掛けていく。度量衡、郵便制度、貨幣制度など、いま私達の生活基盤となっていることの殆どがこの時期に計画されています。

やがて大蔵省で国家予算に関わるようになった渋沢が、国力を増すには歳入と歳出のバランスをきちんと考えて経済基盤を確立すべきだと主張しても、大久保利通たちはそれを無視し、

どんどん予算要求を強めて富国強兵を推し進めていく。結局、その立場の違いが原因となって、明治六年（一八七三）年、渋沢は明治政府を飛び出し、民間の立場から事業に邁進して行くことになりました。

民間に転じた渋沢は、以後何百という事業を興し、育成していき、どれも自分がお金儲けしようとか、自分のものにしようとかいう気持ちは全くなくて、とにかく世の中の為になる、日本の発展に必要なだというのが大前提になっていた。

渋沢が若い頃からずっと標榜し続けていたのは「官尊民卑」の打破で、官と民が一体となっていて、よりよい国家、社会を実現していくためには、何より民間の力を底上げしなければいけない、と渋沢はそのことを強く感じていた。

渋沢は未来、次世代に対する思い、責任感に並々ならない思いを持って、昭和六（一九三一）年九十一歳で亡くなりました。

以上、まとめがありませんが渋沢栄一の辿った路について自分成りで考えた事を記しました。

（昭和41年度 経済科二部）

特集第55回富士祭公開研究討論会

「渋沢栄一の活躍を解く路」

コメント

大泉浩三



大泉浩三

令和四年十月三十日の校友会公開研究討論会「渋沢栄一の活躍を解く路」の発表がありました。その席で活躍の出来た基は渋沢家の教育環境が多分に寄与したのではないかという旨の質問をしました。

この件に関し、此处では『雨夜譚』から一部抜粋、必ずしも経済関係の活躍等ではないが、幼年期から京に出る迄の渋沢栄一の「礎」になったものを掘り下げたいと思います。

思うに渋沢栄一がいろいろな

ステージで活躍出来たベースは、幼年期からの教育環境にあった事、それを受けとることができた資質、そして渋沢家の財力による処があったのではないかと思います。

まずは教育環境について、幼年（六歳頃）から父一郎右衛門・晩香から「句読」文章の読み方を授かり、「大学」孔子を祖とする教学、儒教の教え「中庸」偏らず常にかわらない事、論語二まで習った（父晩香は儒学や俳諧に相応の教養人で知識人であつた）。七、八歳の時、今後は読書の修行は私が教えるよりは尾高惇忠（母方の実家、良く書物を読んで、天稟の才能があり立派な先生）に習うほうが良いと云いつけられた。通学し一時間半から二時間位ずつ読んで

帰ってきました。内容は中国史書、日本史書その他です。尾高の句読を授ける方法というのは数多の書物を通読させ自然と理解力が生ずるに任せる。

「代官の痛罵に奮起する」父の名代として代官からのご用達の件で都合三名連れだつて岡部の陣屋へ出頭した。父は何故に息子栄一を名代としたかが、興味のあるところです。多分にこれまでも同様な仕様で代官から用達の名目で理不尽な要求を何度か呑んでいたのだと思われる。

依つて、今回は十七歳になった栄一に状況を経験させ、代官の申し出にどう感じ、どう理解するかを試したのではないか。代官の如才ないそして人を軽蔑するような人だったが、毅然とした対応、帰路何でこんな事がまかり通っているのか、よくよく考え、その時幕府（徳川）の政事が善くないと感じ、すべて官を世世（主君から家臣に世襲的に与えられる俸禄）するとい

う、徳川政治のしきたりでもはや幣政（悪政）の極度に陥つたのである。思ったに就いて深く考えてみると自分もこの先今日のうちに百姓をしていると、代官のような、いわばまず虫けら同様の、知恵分別もないものに軽蔑されねばならぬ、残念千万なことである。これは何でも百姓を罷めたい、という事が心に浮かんだ。代官所帰りに自問自答した話で、それはただ心にその兆しを發しただけの事で、代官の我儘なことを報告。

父曰く、泣く兒と地頭で仕方がない。翌日金を持って行つた。それから後は、事に触れ物に感じて、ますますその「念慮」が胸中わだかまってきました。このことから「名代」として出した父の想い意図とは、代官の理不尽な要求を体験させることにしたものであつたのではないかと考えられる。

渋沢の農民百姓目線が外向きに変容、世相に対しての思いも

行動も時代に即したのものになって行行った。

二〇歳位までは書物の勉強(史書)では、千古の英雄豪傑も皆自分の友達の様な思いになってきた。家事にも励み藍の商売について、年四度のことを自分が引き受け多忙な日を送った。家業もそれなりに面白くなって来ている。藍の品質向上にも目を配り、生産者にも意欲の出るコミュニケーション作りを展開。父晩香と共に家業・農事に励んだ時期にあたる。藍玉製造販売が盛大となり、質屋、金貸しも併せて営み、村の中でもナンバー二の財産家と云われるようになる過程で直接には携らないにしても、金銭のやり取り及び、はじめの附け方は直に傍で見て、経済の本質的なところを感じて学んだものと思える。

一方、寛永六年伊豆下田沖黒船ペリー以来、世間がだんだん騒がしくなって、以前よりも徳川幕府の政事が衰頹したという



感じを強くするようになった。渋沢栄一、二十三歳であった。

「江戸に遊学す」父の反対を押し切り二か月位、人材との出会い知己探し。事あるときの用に充てる考え。「偵察を京都に送る」。世相の中心地での状況把握、尾高長七郎に京都行を勧めて遣った。「暴挙の企図」二十四歳の時、攘夷一途の思い込みから、高崎城乗っ取り、横浜襲撃を十一月決行で準備、これらの企ては、京都から帰途尾高長七郎の反対で止める。となると速やかに要員の離散それぞれに手当をやって解散、自分たちの身の上を何とか工夫しなければならな

い。

「友と京都への脱出」若さ恃みの思い込一途も見えるが、事象毎に整理はじめはしっかりつけていると思える(此のことは非常に大切な心構えではないかと思う)。

以後本人の好むと好まざるに関わらず渋沢栄一の係ったステージが大変革な調子で変わって行き。京都浪人時代、一橋家時代、フランス随行、明治維新、静岡藩時代、大蔵省時代と替われど、彼は出来る範囲内で大きな意味での経営手法、今で云う処の「P D C A」サイクルを巧みに取り入れていたように思われる。その時々の状況下の課題・事案をしっかりと見定め考え、上位職に説明納得させ、行動に移し、途中経過の変化も良く観察し、対応できる内容であればそれを取り入れ成果を出した。

そして、何事も言い出しついでなく、そして係員のでもなく「掛り」として、自ら先頭に立ち

物事の懸案処理を積極的に行つて実績を上げた(行動を任せるとその係りがそれなりの能力で判断するので限界がでる、そうならないように己で判断し実行成果を上げた)。

依って、常にその周辺では、その仕事ぶりをしっかり見ていて評価された。結果、渋沢栄一は明治維新前後の経済産業に於いて多大な貢献が出来たのではなからうかと思われる。



特集第55回富士祭公開研究討論会

「渋沢栄一の活躍を解く路」

コメント

高橋節男



高橋節男

日本の財界にその名を残し、二〇二四年からは、日本の紙幣の顔にもなる、渋沢栄一翁の、その根本となる、基礎はいつの時代に、どの様な事で形成されていったのか。こんなテーマで討論会が行われ、そのパネラーとなりました。その感想を述べたいと思います。

渋沢栄一の自伝である、『雨夜譚』を中心として。

はしがき

みじかしと悟れば一瞬にもたらず、ながしと観ずれば千秋に

もあまるは、げに人の一生にぞありける。

されど、そのみじかしといひながしと思うも、必ずしもきえゆく年月の数によるにはあらず、その身に遭遇する事草の多少によりて、この観念に長短の差別を生ずるものぞかし。

正に、その身に遭遇する事草の多少によりて、長短を生ずる。若い時は気がつかなくても、年を重ねるとその通りだと思ふ。

大河ドラマになりましたから、ご存じの方も多いと思いますが、概略はこの様なものかと思ひます。

◇自分が書物を読み始めたのは、たしか六歳の時と覚えています。

◇最初は父に句読を授けられて。

◇七、八歳の時、尾高惇忠に習う事になった。

この尾高惇忠という人は田舎では立派な先生といわれるほどの人物である。

◇それから、一四、五歳までは、読書、撃剣、習字等の稽古で日を送りました。父は家業については、はなはだ嚴重であつたから、いつまでも子供のつもりでは困る、農業にも商売にも心を用いなければ一家の益にはたたぬといわれました。

◇一四の歳、父は信州、上州の紺屋通いに出掛けるので買出しに行くことはできぬが、(藍葉の買入れ)お祖父さんと一緒に、栄次郎(栄一の幼名)も前途商売の修行にその駆引を見習うが良し、と細々留守中の事を示し置いて旅立たれました。

◇その後二二の年、尾高長七郎(尾高惇忠の弟)が江戸に出ていたのでそれを便り

に江戸に遊学した。

◇二四の年には、横浜襲撃を密議したり、その前に高崎城の乗っ取りを企んだりしたが、自分の決心はすこぶる無謀であるとして、直前に尾高長七郎が反対し、その結果実に長七郎が自分ら大勢の命を救ってくれたと言つても良い。

◇その後、伊勢参宮かたがた、京都見物にいくと吹聴して故郷を出立し浪人を経て、一橋家の用人、平岡円志郎を頼つて仕官することになる。この仕官のお陰で、パリの万博に行き、外国への見聞を広める事ができたのである。

こうしてみると、人生とはつくづく運と縁であると思ひます。学問を学べる環境に生まれ、その学問をしたことにより世に出る事ができ、更には沢山のひとと出会い、そして、あの時代にパリに行く事が出来、全てに順風

藍玉製造農家の番付

満帆ではなかったかもしれないが、その後の人生を充実したものにできたのだと思います。

運と縁というと、何もしないでころがり込んでくるものが運と思う方が多いかもしれませんが、運は掴むものであつて努力をしない者に運は開けません。

洪沢栄一翁が幼少時代に、学ぶ事が出来た、という事は少なくとも学ぶことをさせてもらへる家に生まれた、という運があつたということです。

しかし、その運を大事にして、努力をしなれば身につかないのです。今は義務教育があつて誰でも学校で教育を受けることができますが、世の中、半分半分だとすると、その受けた教育を身につけるか、放棄するかも半分半分です。

澁沢栄一翁は正にその学問を
身につけた一人であつたと思ひ
ます。

一四歳の時、父が藍葉の買出しに行くことができないので、

お祖父さんと一緒に見習いで買出しにいったところ、途中からは、口実を作って一人で行ってみたいからと、見事に藍葉の買付を成功させたということです。

幼少から学問を習い、青年期に実践、これは会社に入って言うところのオン・ザ・ジョブ・トレーニング（OJT）そのものです。

私達は、トレーニングを受けるときは、必ず誰かについて、保護してもらっています。それでもできないと人のせいにして、不満をぶつけたりして、翁のように一四歳で大人を相手に本当の商売をして成功できる者は希なのではないでしょうか。

こうしてみると、洪沢栄一翁に限らず、何事も成し遂げる人というのは、幼少の時に学び、青年期には実践を通して、学んだことを確固たるものにして、その基礎を形作つていったものと考えます。

仕官をした後においても、相

当の努力を惜しまないで行動をした結果だと思えます。今でいえば社会に出てからということになるのでしょいか。

後悔先に立たずとはいいますが、たいした事をしていない私でも、あの時もう少しやれば良かったなあとと思うことはあります。若い皆さんは、後悔を少しでも減らすように、今からでも努力を怠らないで下さい。そうすれば結果は必ずついてきます。決して前にはありません。

(昭和年47經濟科)



特集第55回富士祭公開研究討論会

「渋沢栄一の活躍を解く路」

まとめ

司会進行輔佐 藤井 直



藤井 直

討論の大半は、十三歳時での藍葉の買付の全うや、十五・十六歳からの紺屋廻りをまかせることが、父親にとっては意図した教育の一環として計画的であったのか、それとも父親の止むを得ない事情によって、仕方なく手伝わせることになったのか、というような議論で盛り上がった。

結局、父親の意図した教育行為と取るべきだという意見が優勢であった。それまでの儒学教育が人を見る目を養わせていて、

原則他人は尊敬すべき存在であることを身に付けることができている、相手の無知や困窮に付け込んで儲けたりすることはしない。

たとえば藍は気温や降雨続きに弱いので出来の悪い時もある中で、気候や長雨続きのときの藍からできる藍玉は質が落ちることが避けられないなどのことを、忘れないで対応すること。相手方に置いておく「通い帳」へ発注高（個数と価格）を記入すること、同じ内容を此方が持ち歩く通い帳（受注内訳記入帳）へ記入すること、それから前回の発注に基づいて納入済の藍玉代金の回収と相手方「通い帳」への記入、取引済印の記入、まさに習字と算盤の活躍の時である。

「通い帳」へはこのときより栄一の文字が並び始めることになる。相手と向かい合っている、面前提での算盤計算と記入となる。

この場面は、相手は総糸かさいとを藍壺に何回も浸しては取出し、全身を使って床に打ち付け、それを何回も何回も繰り返し返す作業をしながら、取引が話し合われるという事が決して珍しいことではなかったと思われる。

雑談は当然あるのが普通でしょう「今回の藍はよく染まりますね、助かります。前回は深い色が仲々出なくて全く苦勞しましたよ、この次のはどうなのでしょうか」はよく出る会話であろう。「二番藍は天候の加減で、寒くて雨が降りましたので弱りましたよ」「今度こちら様へ廻します二番藍は上々の日和で元気が藍が育ちましたし、乾燥ほしもうまくできたので良い発酵の藍玉をお届けすることが出来ますよ」と製造中の藍玉をイメージしながら誠意に満ちた、言葉はでて

こなくてはならないでしょう。実際に良い藍玉は深い色を出せるし、作業時間配分の上でも染職人の経験も活かし易く、逆に、質のよくない藍玉に当たると、いくら頑張つて身体を使っても、浅い色しか出せなくて、長い時間を掛けなければならぬのである。

藍玉を砕いて適量を入れた壺に、腰を何回も屈めて、引き上げた糸総かせや布を激しく床に打ち付けることの繰り返しを見て、感嘆と言うか、一種の畏敬の念、相手の果たしている役割の独自性、そのことに商品交換を通じて参加している、自分の立場の対等性と自立性。良い品質価値を追求することを自覚し進める意識を持てる主体性が関係の中から現れることになる。

良い藍玉は良い藍葉を育成させ乾燥させ発酵させることによってはじめ製造できる。良い藍玉は深い色が出て、最終発注者に喜ばれる。中間の紺屋も

達成感と作業負担の計画性、容易性を獲得できて評判が定着し得意先を拡げる結果になることにもなる。とすれば素になる藍草の良質化を計る出発点に立つて、藍耕作の番附を拵えて、藍の良否に応じて席順を定め、一番よい藍を作った人を上席に据えて賞するなど、イベントを催すのは、単に競争をセットする効果のみでなく、良い藍を作るためには、よい肥料の質と量に関心を向ける。お金がなければ貸しますよ。家は質屋でもありますから、という展開も考えられることではある。肥料をまとめて仕入れて分配します。ということも手堅くまとめることが出来るのである。代金決済は渋沢家が藍葉（乾燥葉）を買取る際に差引清算いたしますから、というように商売もそれなりに拡張することになる。栄一が廻る紺屋は上州、信州、武州の秩父なので何十軒あったか今は分からない。藍玉の品質を分けて、

価格差を設けていたのか、父親との間で割引パターンを決めて置いて、対応するにしていたのか分からない。しかしそのような際には価格差の組合せが複雑になるので算盤が忙しくなる。そして次の組合せではいくらになりますかねなどと聞かれると、暗算で概算して対応するのも良い方法で、いちいち眼前で算盤を入れて見せるのもカッコ好くない。概算を得るには頭から割る、割算九九を使う方が早くて、より忙しくしている顧客の紺屋の仕事空間でも立ち話ができる。そうなると、相手との信用信頼はより円滑さを深める。

取引をめぐる対等性に基づく自立性の自覚と、関係構築に向けて主体性を持つ者同士の Win-Win の関係。

その核は商人関係で領主の介在の外につくられる人間関係である。

とにかく円滑に格好よく信頼

感・期待感を持続させながら商談を進めるためには計算による中断はない方が望ましい。中断なく会話が続けられるには先にも述べたように暗算を併行させることである。頭の中で眼前に算盤を置いて珠をはじいて答えを出す。

価格見込みと予定数量の組合せがいくつあっても苦もなく。ほぼ即座に答が出来る。

もっぱら浅染かしけないという染め方をする紺屋があると、計算はやや複雑で加減乗除を全部使って予定総計を出すこともあるかも知れない。顧客対応の多様性に資することが出来る場面もどんと来いと頼もしい構えになって「十露盤をおかず秤目知らぬことを侮しがりぬ」（日本永代蔵2）ということにならなくて済むということである。

備中へ出張しても播州で木綿物の買入れに藩札制を導入し、さらに大阪の為替方を相手にしてその信用を利用して貸付利息

預金利息を収得する案を提出するときも、その実行を指導するときも、いずれも説得力が具体的であって成果が計画通り、又はそれ以上に出てくるという実績を示すことが出来たのは、いつにかかってソロバンを使いこなすことによって、はじめて出来たのではないだろうか。

静岡のことも言わずものがないです。大きいことも小さいことも、予算も、決算も、途中経過も正直に正確に、部分も、全体も、何時聞かれても答えることが可能であったと考えればよいのでしょう。士族と同等度かそれ以上の教養を持ち、例えば下手でも漢詩をつくって訴えることもできて、書式は申請時も報告時も全体も細部も分かり易く正確で、実行に当たってはトップも中間も実行責任者も自らの心懸けるべきことと、責任について、持分の部分が明瞭に示されているような文書を、いくらでも何時でも、短時間で何回でも作成で

きるような人物はたとえ捜したとしてもそうはいないでしょう。(もともと、財務とか事業、産業に関してですが)。

逆の言い方をすると、渋沢は狭い意味での封建的官僚制の外に居たからそうなるのであって、彼が商人として、身分制とは関係のない対等な人間関係が前提として成り立つ商取引の当事者として自立的で主体的な考えと行動の出来る人格の形成者であるということであって、幕藩的な人間関係の外、例えば岡部藩の影響の外に形成された人間関係の類型であるということに尽きると思われます。

もともと安部氏が国持ち大名位であったなら、商業規制に乗り出して専売制を布くなどし、武士が介入してくるという事態が考えられ、その場合は渋沢家のような家内制手工業は、藩の傘下に入られて、封建官僚の下でいろいろ規制を受けて、付度とかなければならなくなり、

トータルな自立性と主体的な判断と行動が制約され、どこまでも自己責任で行動するいわゆる近代的な人間像とは別の印象を与える人となると思われる。

それに血洗島村は相給の村で村高の中で米作りの割合が少ない村であることから、金納割合が多くなっておれば商品化作物の耕作とそれに伴う、商業との接触も行われやすいという事情もあって、大きな村にありがちな村役人を通じての耕作品目制限とか、許可とかの封建的制約から遠い位置にあったという背景があったことは確かなことと考えて良いと思われる。

そういうわけで、明治維新になって西欧化の諸思想制度が入って来ても、渋沢にとってはいっこうに困らないすでに先取りしているからということになる。

当日会場でフロアーから「フランスのことが一向に出てこないがどういうわけですか」とい

う質問が出されましたがどういうわけも、こういうわけも基本的にその前に形成された渋沢像の根本はどうだったかという設定で探求していますので、ということですが、コメンテーターから「フランスでは偉い人と商人が対等に会話しているのを見て驚いたりしたのですよね」とか「ベルギー国王から鉄鋼製品の売り込みの話を向けられて、びっくりしたことがありますね」とか対応がありました。が、渋沢としては、驚いたということの内容は、自分の行く路は間違っていないと確信したという事ではないでしょうか。

以前以上に自信を持つことができたと思っただけではないでしょうか。しかし、方向がそうだったとしても、その進路上の仏・日本間、あるいはベルギー・英国対日本間の格差にはたしかに驚いたと思われます。インフラのスケールの大きさは到底当時の日本を前提にしては考える

事のできない程巨大であったと思われれます。工場にしても綿紡績では一万錘以上とか、適正規模の水準を現物で確認出来たことは大きいと思われれます。

それよりもなによりも国民国家のスケールを現物として見たことが、何よりの収穫であったと考えます。

思想については学説はともかく渋沢の立場で基本的なところでの違和感はなかったと思われれます。

なまじ学説を知っていると、そこで安心して一旦進歩が止まってしまうこともあるので渋沢は、そのような落とし穴に落ちることを逃れることができて資本主義のより純化に向けて幕末から昭和まで一貫して活躍を続けた、貴重な人であったのではないのでしょうか。

(昭和42年 経済科)

校友会 定期総会

講演会報告

松原春男



松原春男

第七三回定期総会は令和四年六月一八日(土) 東京富士大学本館一階メディアホールで開催されました。総会はコロナウィルス感染の関係で三年振りに開催され久しぶりの再会ということとで、出席された会員皆さんが懐かしく感じられました。講演(口演)は入船亭扇里師匠の落語二題でした。師匠は平成八年に入船亭扇橋師匠に弟子入り、平成二二年に真打に昇格されました。第六六回定期総会で講演いただきました入船亭扇蔵師匠は兄弟子にあたります。最初の演目は「ちようちゃんや」という演目で、長屋の連中が集まってい

るところにチンドン屋が通りかかりチラシを配って行きました。連中は誰も字が読めず何のチラシかさっぱりわからない。食い意地の張った連中ばかりで、ソバ屋ならもつとのびた字を書きそうなものだし、寿司屋なら握った字を書いてあるはず、てんぷら屋か、はたまた中華料理か、変わったところで、大阪ではすっぱんをまるというから、こう字が丸まったところを見てすっぱん屋かしら、いや、かしわ(鶏)料理だろうと、食い意地が張って、片っ端から食い物屋の名前を並べ立てても、ちがいが明かない。そこに米屋の隠居がやって来て読んでもらうと、これは食い物ではなく、提灯屋の新規開店の広告で、今日から七日間は提灯に書く紋は無料で描きます。また、書けない紋があれば、その提灯は無料で差し上げますとある。そこで長屋の連中は、提灯をタダで貰おうと提灯屋に行

き、一人目が、「鍾馗さまが大蛇を輪切りにした紋を書いてみる」と判じて迫り、降伏させ提灯をタダで貰う。二人目以降も次々と判じ物で迫りタダで貰い、町内は提灯行列の様。隠居は提灯屋が可哀そうになり一番高い提灯を注文して、紋は「丸に柏」ともともな紋を注文したが、判じ物で傷めつけられている提灯屋は判じ物と判断し、「すっぱんにニワトリ」と答える。この「ちようちゃんや」という落語は上方落語(関西)で発祥で、落ちの「すっぱんにニワトリ」とは、関西ではすっぱんを甲羅が丸いのですっぱん鍋をまる鍋ともいい、柏は鶏肉をさすことから来ています。

次の演目は、「試し酒」という演目で、尾張屋の主人のところ、馴染みの近江屋が下男の久蔵を連れてやって来る。そして近江屋は、「久蔵は大酒飲みで五升は飲める」と自慢するので、尾張屋は久蔵が五升を飲めるか賭けを持ち掛け、久蔵が五升を飲めたら、温泉宿で遊び費用は私が持つと賭けを申し出る。外で待っている久蔵が呼ばれ、久蔵に掛けに乗るよう話し掛けられるが乗り気しない。そこで尾張屋が、久蔵に賭けを受けなければ近江屋の負けだと告げると、少し待ってくれと言って外に出て行く。しばらくして、久蔵が戻ってきて賭けに乗ると言い、大きな杯で一升ずつ飲みながら、主人・近江屋の愚痴を言ったり、身の上を嘆いたりしながら五升の酒を飲み干してみせる。賭けに負けた尾張屋は驚き「さっき外に出て行った時に、酒に酔わない薬でも飲んだのか、それとも何かまじない受けて来たのか」と尋ねると、久蔵は「五升の酒を飲んだことがなかったの、心配になり表の酒屋で試しに五升の酒を飲んで来た」と答えた。最後に師匠はコロナウィルスで、寄席での常設の落語が減り、少人数の集まりで落語を話したり、インターネットで配信したりして落語家も努力されているそうです。師匠もこのあと横浜の方で落語を話さされるという事でした。

(昭和41年 経営科)

東京富士大学に学ぶ

学友会会長を務める

工花菜子



工花菜子

私は小さい頃から音楽が大好きで将来は音楽に関わる仕事をしたと考えていました。その中でとあるアーティストの LIVE に行った際、演出やセットリスト、舞台装置にとっても感動を覚えいつか自分もこの世界に入ってたくさんの方が笑顔になる「LIVE」を作りたいという夢に変わりました。様々な大学や専門学校を見た際に、本学のイベントプロデュース学科を見つけ、こなら自分の夢を叶えられるかもしれないと思い入学を決めました。私は自分に自信が持てませんでした。四年間で何かしら自信が持てる経験がしたいと思い、学友会執行部に入りました。しかし私以外の役員は、中学や高校で生徒会をやっていたメンバーがほとんどだったため自分には向いていないのではないかと辞めようと思ったこともありましたが、さすが周りの先輩方や同じ歳の二人、後輩のみんなが支えて

くれたおかげもあり副会長を務めたその経験を活かし会長を二年間務めました。

会長を務めた二年間は、新型コロナウイルスの影響を受け思うように活動ができず最初の方は後輩も入らない状況で焦りを感じていました。少しでも後輩を増やし今後へと繋げるために勧誘などを行った結果、今では役員が十二名になり頼りになる後輩が多く入ってきてくれました。会長を継いでくれた剣持さん、岡村くんをはじめ学友会執行部に入ってくれた後輩のみんな、先輩方、そして一年生の頃から支えてくれた竹村くんと神山くんには感謝しありません。ありがとうございました。

入学当時は「LIVE」を制作したいという夢を掲げていましたが、学校生活やアルバイトを通じて人を笑顔にできる、人の役に立てるような仕事に就きたいと思うようになり、就職活動を始めました。多くの企業を見て将来のこと、自分のことを考えたどり着いたのは今の企業でした。当初の夢とは全く違う道を歩む事になりますが、東京富士大学で学んだことを活かしながら社会人を頑張りたいと考えています。進学への背中を押してくれた母、またこの四年間支えてくれた教職員の皆様、先輩方、後輩のみんな、そして四年間共に頑張った友達にはこの場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございます。

私(経営学部イベントプロデュース学科)の大学での四年間とは

免田虎汰郎



免田虎汰郎

私の大学生活の四年間はあつという間でした。心理学と経営学の両方を学ぶために東京富士大学に入学した私は始まる学生生活に心躍りました。というのも熊本の本の片田舎から上京してきたため、何も知らない土地、人、情報の中で生活できることがとてもうれしかったんだと思います。一年生の頃は対面授業で想像していた大学の講義で楽しく勉学に励んでいたことを覚えています。

ところが大学生活にも慣れてきたと思ったタイミングでのコロナ蔓延。二年生からはオンラインでの授業が始まり戸惑いました。慣れていた対面からオンラインへの変更による何か違うと思えるような講義、システムの変更によるわずらわしさ、一年生で出来た友人とも会話をしなくなり、サークルにも入っているのかいないのかすらわからなくなっていました。それが二年ほど続いていたので慣れてくるわけですが、大学生活として充実した日々を送っていたかと言われたら送って

いなかったといわざるを得ません。勿論その中でもとても充実していたと思える時間はありました。

それはゼミの時間です。三年生から本格的なゼミの時間が始まるわけですが、ゼミ発表大会までの動画制作の時間や研究している時間は大学生活の中で最も充実していた時間でした。隅田ゼミに入ったことは大学に入ってから一番の幸運でした。コロナだったからこそその動画形式での発表はゼミの仲間と試行錯誤しながら作り上げる時間はかけがえのないものでした。隅田ゼミに入るきっかけは交渉学を学べる事と企業関係者による特別授業があることでした。コロナ禍の関係上特別授業は出来なかったのですが、交渉学や宇宙法、議論での法則や技術のことを学びました。特にディスカッションでの経験は社会人になっても役立つものばかりでした。

ゼミのこと以外でも疑問や悩みについての確かなアドバイスをいただき、お世話になりました。卒業間近にして大学生活でやりのこしたことがあるとするならばコロナ禍であまり友人と遊びや飲みに行けなかったことでしょうか。これからコロナに対しての措置も緩和すると思われるため、今学生の人たちにはたくさん遊べと言いたいですね、後悔のないように。

この大学に入ってから多くの知見を得ることができ、師や友人にも恵まれたこの学校に感謝し、この四年間で得たものをこれから活かしていきます。誠にありがとうございました。

大学院経営学研究科修士課程を修了して

コロナ禍だから出来たこと

谷道名緒



谷道名緒

大学院入学のずっと前から、私は小さな酒場が立ち並ぶ商店街組合の事務員として働いていました。合の事務員として働いていました。拡大防止のための自粛で、昼も夜も眠った状態になった時期がありました。街が寝静まったときに、私は色んなことに思いを巡らせ、専ら先に途中で投げ出した税理士試験の勉強を再開させたいと思いました。思い立ったが吉日とでもいうように、物事が動き始めました。まずは、税理士事務所では修業してみたいということで、運良くご縁があり、午前中だけ働かせてもらえることになりました。

次に、せっかく税理士試験の勉強をしてきたのだからと、大学院の受験を何気なく勧められ、私も途端にその気になり、急展開で色々なことが決まりました。

始まった大学院生活は、覚悟した以上にハードなもので、午前中は税理士事務所働き、午後は急

いで移動して商店街組合の仕事、そして仕事を早退して夕方からは大学院の授業という日々が続きました。私にとって、勉強ができることは本当に嬉しいことでしたが、体力が追いつかない悲しさも実感しました。

有難いことに、授業はほぼオンラインだったため、通学しない分だけ私の体力は温存できました。そもそも我が家は大学院から歩いて十分もかからない距離にあるので、対面授業だったとしても気が楽でした。こうして満身創痍の一年目が終わりました。二年生になると週一回の授業になったので、租税資料館に週二回通うことになり、早めに修士論文に必要な資料を集めました。難解な先行研究に立ち往生し、思考も行ったり来たりで迷いながら、毎日パソコンと向かう時間を作って、少しずつ論文を書き進めました。渋谷教授の指導のもと、多くの助言をいただき、論文が完成しました。

このような二年間を送ったわけですが、コロナ禍だから出来たことだと思えます。そうでなければ、勉強をしたいという気持ちも日常生活の中につまにか消えていたかもしれません。

最後に、ご教授くださいました諸先生、大学職員の皆様、応援してくれた同僚、友人、家族に心より感謝いたします。ありがとうございました。

(大学院経営学研究科修士課程修了)

大学院進学の動機

佐藤智明



佐藤智明

私は、税理士試験の税法科目免除のため、東京富士大学大学院経営学研究科に入学いたしました。税法科目免除のための論文指導を受けられる大学院は、他にもありますが、私が大学院を選ぶ際に重視した点は、仕事をしながら大学院に通学できるか、そして、何れらの点については、入試の前に三関先生に個別面談の機会をいただき、丁寧に説明を受けたことで、理解が深まりました。

本大学院の授業のうち、税法に関する科目については、国税庁出身の先生方が担当されていることもあり、学術的な視点のみならず、実務的な視点からの検討も行われ、自らの業務において多いに役立つものとなりました。さらに、税法以外の授業についても、ビジネスロー、人的資源管理、会計職業倫理、ファイナンスといった非常に興味深い内容のものが多く、今後

の自らの業務を考えますと、他の大学院や資格スクールでは得られない幅広い分野での知識を身につけることができました。

また、修士論文については、主査である三関先生から、まずは、1年次の早い時期から資料収集を進めること、そして、集めた資料の読み込み、整理を行うことの指導を受けました。

その指導のおかげで、コロナ禍により資料収集に係る図書館が予約のうえ滞在時間や入館人数の限定されている状況にあっても、早い時期から資料収集を行ったことで、2年次は、資料収集にあまり時間を取られることなく、執筆に集中することができました。

論文内容の指導においても、三関先生からは、常に仕事の状況や論文の進捗を気にかけていただき、論文の進捗をしながらの論文作成は想像以上に大変なものでしたが、内容についても、細部までご指導いただけましたので、一歩一歩着実に進めることができ、本大学院に入学して本当によかったと実感しております。

今振り返ると、本大学院で過ごした2年間はあつという間でしたが、今後の私の人生にとって、貴重な2年間となりました。本大学院で、学んだ知識や得た経験、そして、先生方や同じ志を持つ仲間との出会いは、かけがえのない財産です。

本当にありがとうございました。

支部支会報告

少林寺拳法部雄峯会

会長 本間 鈴次

今年度は、社会の行動制限も大幅に緩和され、諸々の行事が挙行されております

我々少林寺拳法も二〇二〇年、二一年と全国大会が中止となり、ようやく本年度、三年振りの開催となりました。日時・二〇二二年十一月十九日～二十日に丸善インテックスアリーナ大阪に於いて、『二〇二二年全国大会』OSAKA』が開催され、テーマは『自己確立 自他共栄』咲かそう笑顔 つなげよう未来』で盛大に行われました。

我々の少林寺拳法部雄峯会も本年度から、部活を開始出来ることを学校側と話し合い決まりました。現在も残念ながら、現役の部員がいらない為、雄峯会会員のみにありますが、本館地下武道場の使用許可を頂きましたので、五月から毎週木曜日借りの事が出来十名前後の人数にて練習を開始しております。

今年度は、四月四日のオリエ

ンテーションにて説明し、一名練習の見学に来た生徒がいました。残念ながら入部に至らず。六月十八日、校友会総会に当会員も久しぶりに会う人も出席しました。

十月三十日、富士祭にて雄峯会として少林寺拳法の演武会を久し振りに行う事ができました。

十二月三日、東京新橋「新橋亭」に於いて十五名出席のもと忘年会を行い全員楽しく無事「寅」年を過ぎ新しく「卯」年を迎えられます様祈念し解散しました。

（昭和41年経済科二部）

雄峯マネジメント研究会

事務局長 森川 昇

我々の会は、年4回、3カ月毎に例会を開いています。事業年度は、6月1日から翌年5月31日までの1年間であります。まず、6月に総会があり、9月、12月、2月の第1金曜日に例会を開いて、会則第2条にあるマネジメントの研究を中心に、会員の交流で親睦と情報交換を図っています。

今年の活動報告ですが、6月3日（金）母校を訪れ、校友会室をお借りして定時総会を開催しました。第一部が総会、第二部が懇親会と二部構成でおこないました。

第一部の定時総会は、3年振りに開催することができました。

①令和3年度事業報告承認の件
②令和3年度収支決算報告承認の件
③令和4年度事業計画承認の件
④役員改選の件
（案）承認の件
が審議され、いずれも原案どおり承認可決されました。役員改選では現会長の松原会員の続投を満場一致で決めました。

第2部は場所を移して「清

龍」で懇親会をおこないました。こちら、3年振りに一堂に会しての懇親会であり、大いに盛り上がりました。また、令和4年9月2日（金）の例会、12月2月（金）の忘年会、令和5年2月3日（金）の例会は、依然として新型コロナウイルス感染拡大が続いている状況を踏まえ、会員の健康と安全を考慮して、すべて中止とさせていただきます。

そんな状況で今年度は、定時総会以外、何も活動ができませんでした。引き続き、会員を募集しています。マネジメントに関心、興味のある方は左記にご連絡ください。

事務局 森川 昇

〒328・0011

栃木県栃木市大宮町

2284・68

TEL&FAX

0282・27・5480

（昭和47年企業経営学科二部）

支部支会報告

東京富士大学 会計人会

会長 若狭茂雄

令和4年度においてもコロナ等により、各大学友好会計人会との総会及び懇親会、研修会等は中止となりました。

当東京富士大学会計人会と大学生、大学院生との判例研究会も中止。

令和3年税理士合格祝賀会開催
令和4年5月14日 東京富士大学大学院の教室にて

参加合格者 矢部友里、西澤勉、山田正明。

合格者6名 矢部友里、遠藤寧、岡野優子、西澤勉、山川健次、山田正明

お祝い金と岩下忠吾会員の相続



若狭茂雄

税等の出版物を贈呈致しました。

大学院生と会計人会会員と地域住民を対象にした租税教育の実施

令和4年5月14日所得税Ⅰ講師 曾根俊彦 会計人会会員

令和4年6月11日所得税Ⅱインボイス等 講師 林祐二 会計人会会員

令和4年7月9日相続税一般講師 佐藤教授

令和4年8月6日相続税申告書の書き方 講師 若狭茂雄 会計人会会員

今年は4月より開催していた判例研究会を会計人会の税理士OB・OGと大学院生を含め実施したく、大学との打ち合わせ中ですがZoom利用等も検討しております。その節はご協力と参加お願いいたします。

全国大学会計人会サミットが二年ぶりに開催 テーマ 中小企業を支援する会計マネジメント 会場 小樽商科大学

令和4年10月27日午後1時30分より小樽市民センターで開催

報告者「白い恋人」の会社、

石屋製菓(株)社員「コロナ等厳しい会社状況からのマネジメントによる立ち直り方」

特別講演 小樽商科大学教授「ドラッカーに学ぶ人間学」

対面参加 若狭茂雄 Zoom参加 谷紀子、上田晴美、三原紀久恵、高橋節男

小樽商科大学緑丘会計人会による懇親会、午後5時30分より小樽タイムズガーデン。

各大学会計人会の仲間と久しぶりの対面で充実した一日となりました。

令和5年サミットの幹事校は、

慶応義塾大学会計人会三田会。近くでの開催ですので参加お願い致します。

令和4年税理士合格者祝賀会開催予定。

今年度は、国税審査会への申請で税理士資格が得られる人を含めると10名以上と見込まれます。

確定申告終了後に予定しますので参加よろしくお願い致します。

(昭和41年経済科二部)(平成16年経済学部夜間主)



叙 勲

叙勲瑞宝双光章受賞報告

校友会顧問 関 實



叙勲情報

令和4年度高齢者叙勲に際し関 實氏（校友会顧問）に法務省法務事務官として長年に亘る、法務行政事務功労者として瑞宝双光章が、内閣府より令和4年12月1日付で授与されました。校友会といたしましても、御同慶の至りと存じますとともに、その榮譽をお祝いたします。

著書・著作

抵当証券と登記実務（日本加除出版）
民事訴訟法と供託法の接点（東京法経学院出版）
休眠担保権の抹消登記と供託手続（同）
戸籍の見方と相続登記（同）
商法改正による登記手続（同）
法律セミナー（月刊誌）掲載多数（同）

趣味

詩・俳句・短歌
法務省職員俳句大会 法務事務次官賞
NHK学園全国俳句大会 秀作
予定祝賀会

日時 令和五年五月十四日（日）

午前十一時～十三時

場所 ワシントンホテル プリムローズ

さいたま市浦和区高砂二丁目一番十九号

電話番号 048-825-4001

事務所 関司法行政事務所

さいたま市浦和区岸町四丁目25-15-405

電話番号 090-1266-015607（関）

Fax 048-834-5570

文 芸

紅 梅

関 實

紅梅に 晴のつづきの 明るかり
窓開けて 桜の風を 通しけり
桜咲く 校門は重く 一歩かな
蔵町に 一日を得たり 返り花
川で揉む 神輿はげます 胴間声
白粥をすする祭りの 果てし朝
巾着田を人の行き交う 曼珠沙華
ひそかなる 山坐りるる 月夜かな
木犀の 香りたたみぬ 己が影
はるかなる 山よく見えし 冬桜
みちのくの 天のときめき 鳥渡る
かさねゆく 年月のあり 年の暮

（昭和36年 経済科二部）

事業部長

大泉浩三



大泉浩三

この度、事業部長に就任いたしました。前年までは組織部として校友会行事に協力させて頂きました。八城事業部長が校友会会長に就任されました。それを受けましての事業部長の拝命と戸惑っています。ここ四・五年『雄峯』編集の方に携わっている関係で編集等のつながりが途絶えないよう的人事だと捉えています。

事業部は各種研究会及び親睦会の開催、『雄峯』の発行等を行う部ですが、如何せん現状校友会活動は実働人員が少ない上、若手も少なく、この辺りの改善に良策があればと思っています。今年度の役員改選では新しい理事の方々が入られましたので楽しみです。渉外的な事は余り得意ではありません。会員の皆様の積極的なご参加を期待しております。どうぞ、ご協力をお願い申し上げます。（昭和45年 経済科二部）

事務局次長

坂下尚樹



坂下尚樹

この度、事務局長のお手伝いをして頂くこととなりました。微力非才の身ではございますが、平柳事務局長のお仕事をサポートできるような職務に尽力してまいります。事務局運営の経験はありませんが理事の皆様にご指導いただきながら経験を積んでまいりたいと思います。

校友会の活性化には若い会員の皆様のご協力が必要です。ご協力の程宜しくお願いいたします。

常任理事

鴨下一

（平成28年 大学院修士課程修了）

この度、常任理事に就任いたしました。これ迄は、校友会役員は自分とは、別物だと思っておりました。

校友会元会長本間鈴次氏より、推薦・理事を仰せつかりました。校友会活動内容は、いまっ理

解しておりませんが、少しずつ覚えていきたいと、思っております。



鴨下 一

で、どうぞ宜しくお願い申し上げます。（昭和42年 経済科）

常任理事

曾田敏彦



曾田敏彦

この度、常任理事を仰せつかりました。大学院を修了して四年たちますが、学部を卒業していないため母校のことも校友会のことも理解不足のところがございますが、勉強しつつ校友会の発展の為、頑

張つてまいりますので、何卒宜しくお願い致します。（平成30年 大学院修士課程修了）

常任理事

小荷田政史



小荷田政史

この度、常任理事を拝命いたしました。校友会の方々は学生時代の簿記部主催の簿記競技大会の運営からお世話になりました。その縁で今でも続き、今回常任理事というかたちで、さらなるご縁をいただきました。

校友会メンバーの中では四十代とかなりの若輩者となりますが、母校の発展に寄与できるよう、微力を尽くせるよう頑張らせていただきます。

だきますのでどうぞよろしくお願い致します。

（平成8年 経済学科）

会計監事

高橋節男

この度、会計監事に就任いたしました。

これまで、常任理事を担当していました。この三年程、コロナ禍であまり理事会には出席していませんでした。

コロナの規制緩和も進んでおり、



高橋節男

常任理事

奥山飛雄馬

この度、常任理事として東京富士大学校友会の運営に参加させていただくこととなりました。理事会においては、若輩者ゆえに力及ばぬ事が多かろうと危惧しております。しかしながら、頼もしい諸先輩方の背中を見て、学びながら校友会の活動に貢献していく所存です。よろしくお願い申し上げます。



奥山飛雄馬

(令和元年 大学院修士課程修了)

常任理事

林 祐二

この度、常任理事に就任いたしました林祐二です。校友会の活動



林 祐二

がまだ理解できておりませんが、少しずつ勉強して校友会発展の一助となりましたら幸いです。会員の皆様に助けていただきながら、精一杯がんばりたいと思います。ご指導の程、よろしく願います。(令和2年 大学院修士課程修了)

理事

江藤かすみ

この度、理事に就任として任命いただきました。私は昭和四十七年向学心に燃えて経済学科二部に入学しました仕事と勉学の二刀流は大変な毎日でしたがそれでも母校の門に入るとほっとしたことを思い出します。授業について行くのも大変でしたが、素晴らしい講義を受けることで宝の毎日を、そして青春のページを開くことができました。卒業してから富士祭には友人達と声を掛け合い参加してま

いりました。以前「ファイイン」の編集の手伝いや卒業生の方にハガキを



江藤かすみ

送るなどの事務のお手伝いをさせていただいたこともありました。

今でも富士短期大学時代の卒業の皆さんと交流が続いています。今後とも母校と校友会の発展に力を尽くしてまいりたいと思います。(昭和49年 経済学科二部)

理事

大沼洋子

この度、先輩からお声を掛けて頂き校友会の理事を務めさせていただくことになりました。半世紀も前に卒業しましたが、富士短期大学から東京富士大学になったことも大きな喜びでした。二部学生として学んだ時、創立者の高田勇



大沼洋子

道先生の教育にかけられた情熱を知り、素晴らしい学び舎に入学できた事に感謝したことが忘れられません。今回ご縁をいただき何の取柄もありませんが、少しでも校友会のお役に立てればと思っております。諸先輩からご指導いただき、未来の宝の皆様の為に、少しでも貢献出来れば幸いです。どうぞ、よろしくお願い致します。(昭和48年 経済学科)

理事

岩中多枝子

この度、縁あつて理事を拝命いたしました。わからないことばかりですが、何卒よろしくお願い致します。これまで毎年の学園祭のおり、大学に足を運び同窓の友と交流の場を持つ機会がありました。校友会の活動に関わることはほとんどありませんでした。これを機会に、会員の皆様に少しでも喜んでいただけるよう努めてまいります。少子化が進む今日、同期の友との横のつながりに加え、先輩後輩の縦のつながりも大事になつて



岩中多枝子

令和4年度 学園行事

●4月

新入オリエンテーション(オンライン開催) 4/1 二上講室
入学式(4/3 二上講室)
新入生オリエンテーション(対面開催) 4/4 二上講室
教員懇話会(4/8)

第54回春季リーグ戦兼インカレ東京都1次予選会1部
4/9 23 東京富士大学 高総合グラウンド 江戸川球場他
4/9 東京富士大学 3・0 国士館大学
4/10 東京富士大学 0・4 東京女子体育大学
4/10 東京富士大学 4・3 日本女子体育大学
4/17 東京富士大学 3・2 早稲田大学
4/23 東京富士大学 3・8 日本体育大学
2022年関東学生卓球新人選手権大会
(4/29/30) 神奈川県座間市立市民体育館
女子ダブルスベスト8 原田 優芽(経営学部3年) 組
伊東みらい(経営学部1年) 組

●5月

2022年春季関東学生卓球リーグ戦
(5/11/15) 所沢市民体育館、代々木第2体育館
5/11 (水) 第1戦 東京富士大学 2・4 専修大学
第2戦 東京富士大学 2・4 中央大学
5/12 (木) 第3戦 東京富士大学 2・4 早稲田大学
第4戦 東京富士大学 2・4 青山学院大学
5/13 (金) 第5戦 東京富士大学 2・4 東洋大学
5/14 (土) 第6戦 東京富士大学 4・1 筑波大学
5/15 (日) 第7戦 東京富士大学 4・1 日本大学
3勝4敗第4位

優秀選手賞受賞 泉田 朱音(経営学部3年) 7戦全勝
第54回春季リーグ戦兼インカレ東京都1次予選会1部
(5/15) 日高総合グラウンド 江戸川球場他
東京富士大学 5・0 国士館大学
東京富士大学 3・4 日本女子体育大学
1勝1敗 インカレ出場決定
創立記念日(5/17)

第53回春季リーグ戦兼文部科学大臣杯
第55回全日本大学選手権東京都1次予選会1部
特別ベジシステム(5/22/23 国士館大学
多摩CP・東京富士大学 日高グラウンド等)
第1戦 東京富士大学 4・3 東京女子体育大学
第2戦 東京富士大学 1・8 日本体育大学
春季リーグ戦最終順位 2位

●6月

学生大会(6/21)ステイホール(対面・zoom開催)
ボウリング大会(6/20)BIGBOXグラウンドボウル

●7月
高田奨学生授与式(7/2)
第91回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)
(愛知県豊川市豊田)ベスト8 入賞
春季期末試験(7/18/29)

●8月
2022年令和4年度 第88回全日本大学総合卓球選手権大会
(個人の部)
関東地区予選会(8/2/3 東京都駒沢屋内球技場)

女子シングルス予選通過者
宮田保野花(経営学部4年)
森田 真綾(経営学部1年)
女子ダブルス予選通過者
原田 優芽(経営学部4年) 組
伊東みらい(経営学部1年) 組

第14回白馬カブダリ大学女子ソフトボール大会
(8/30/9/1 長野県白馬村)
8/30 第1戦 東京富士大学 5・2 仙台大
第2戦 東京富士大学 6・2 大阪青山大学
8/31 第3戦 東京富士大学 1・0 東海学園大学
予選リーグ4勝0敗 1位通過
決勝リーグ降雨のため中止、予選リーグ1位のため優勝
9月

●2022年

秋季関東学生卓球リーグ戦
(9/1/10) 所沢市民体育館代々木第2体育館
9/1 第1戦 東京富士大学 0・4 早稲田大学
9/2 第2戦 東京富士大学 4・1 日本大学
9/3 第3戦 東京富士大学 3・4 筑波大学
9/3 第5戦 東京富士大学 0・4 中央大学
9/9 第6戦 東京富士大学 3・4 専修大学
9/10 第7戦 東京富士大学 4・3 東洋大学
3勝4敗 第5位

第54回秋季リーグ戦(9/24/10/8 東京富士大学 日高グラウンド)
9/24 第1戦 東京富士大学 対 日本体育大学 順延
9/25 第2戦 東京富士大学 1・0 東京女子体育大学
9月卒業学位記授与式(9/30 メディアホール)
●10月
第54回秋季リーグ戦(9/24/10/8 東京富士大学 日高グラウンド)
10/1 第3戦 東京富士大学 0・2 早稲田大学
10/2 第4戦 東京富士大学 7・0 国士館大学
10/8 第5戦 東京富士大学 4・0 日本体育大学
10/9 第1戦 東京富士大学 0・9 日本体育大学
3勝2敗 第3位
防災避難訓練(10/19 中庭キャンパス)
第88回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)
(10/20/23 滋賀県・YMITアリーナ)
シングルスベスト16 千葉菜月(経営学部4年)
ダブルス準優勝 千葉菜月(経営学部4年) 組
泉田 朱音(経営学部3年) 組

第55回東京富士祭(10/28/29/30)
1日目 模擬店・展示発表・足湯・ステージ・
抽選会・新日本書道書友会「関東展」
2日目 模擬店・展示発表・足湯・ステージ・
校友会公開講演会・校友の広場・
少林寺拳法部旗争奪大会・抽選会・
新日本書道書友会「関東展」

●11月

スポーツ大会(障害物競走・ドッジボール) 11/1 フジアリーナ
令和4年度WBS Cアメリカンフットボール大会
(11/10/23 グアテマラシティ)
ブラジル・ヨルダン選手 出場 西内あけみ(経営学部4年)

第18回全日本学生選抜卓球選手権大会
(11/25/27 北海道・苫小牧市総合体育館)
シングルス予選リーグ第3位 千葉 菜月(経営学部4年)
12月

ゼミ発表大会(12/7)
第14回関東学生卓球チームカップ
(12/16/17 埼玉県和光市総合体育館)
Aチーム第3位入賞
Bチーム2回戦敗退
学生大会(12/19)メディアホール
ボウリング大会(12/19)BIGBOXグラウンドボウル
モンゴルランチャー1 (12/22)
●1月
秋季期末試験(1/19/1/25 対面授業用 対面試験)
秋季期末試験(1/26/2/2 対面形式)
2022年全日本卓球選手権大会1/24 東京都 東京体育館
女子シングルス 出場 2回戦敗退 松岡 優香(経営学部4年生)
女子シングルス 出場 4回戦敗退 千葉菜月(経営学部3年生)
混合ダブルス 出場 2回戦敗退

●2月

学生生活動奨励賞授与式(2/2)
FISUワールドユニバーシティゲームス日本代表選考会
(2/26/27 新潟市西総合スポーツセンター)
7勝3敗 第3位 日本代表決定 松岡 優香(経営学部4年生)
学位記授与式(3/21 二上講室)

令和4年度校友会事業計画

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

本年度実施する主な事業
1 講演会開催
日時 令和4年6月18日(土) 13時30分~15時00分
場所 東京富士大学本館1Fメディアホール
落語入船亭扇里 師匠「落語」題

2 定期総会開催
日時 令和4年6月18日(土) 15時10分~16時30分
場所 東京富士大学本館1Fメディアホール
議題 I 令和3年度事業報告承認の件
II 令和3年度収支決算書承認の件
会計監事 監査報告
III 令和4年度事業計画(案) 承認の件
IV 令和4年度収支予算(案) 承認の件
V 役員改選の件
VI その他

3 懇親会
日時 令和4年6月18日(土) 17時30分~19時30分
場所 新宿プリンスホテル「プリンスマルシェ」
会費 6000円
4 研究会開催
日時 令和4年10月30日(日) 13時30分~15時30分
場所 東京富士大学 五号館532教室

パネルディスカッション
テーマ「渋沢栄一の活躍を解く路」
5 会報の作成と配布
会報「雄峯」第61号1000部を作成し、
新会員及び会員並びに学校に配布
6 会員名簿の作成
全会員名簿の整理と変更等のメンテナンス
7 入会記念品の配布
新会員に記念品を配布
8 支部・支会の助成及び育成
9 学生行事への助成と交流
その他

令和4年度校友会行事録

●4月3日…入学式(二上講室)
●4月20日…会計監査 感染対策により自宅にて監査
1 令和3年度会計監査
●4月27日…常任理事会(校友会室)
1 令和3年度校友会事業報告及び収支決算について
2 令和4年度校友会事業計画(案)及び収支予算(案)について
3 定期総会・講演会について
4 役員改選について

●5月18日…委員会・理事会(校友会室)
1 令和3年度校友会事業報告及び収支決算について
2 令和4年度校友会事業計画(案)及び収支予算(案)について
3 定期総会・講演会について
4 役員改選について

●6月18日…第73回定期総会
①講演会
会場 東京富士大学本館1Fメディアホール
落語入船亭扇里 師匠「落語」題
②定期総会
会場 東京富士大学本館1Fメディアホール 議題
1 令和3年度事業報告承認の件
2 令和3年度収支決算書承認の件
会計監事 監査報告
3 令和4年度事業計画(案) 承認の件
4 令和4年度収支予算(案) 承認の件
5 役員改選の件
③懇親会
会場 新宿プリンスホテルB2F「プリンスマルシェ」
7月21日…委員会(校友会室)
1 役員選出について
2 東京富士祭における事業について

●8月25日
常任理事会(校友会室)
1 東京富士祭における事業について
●10月30日…東京富士祭 校友会公開講演会
パネルディスカッション
テーマ「渋沢栄一の活躍を解く路」
3月…常任理事会
1 総会運営について
2 定期総会講演会について
3月21日…二上講室
学位記授与式(二上講室)

令和3年度校友会特別会計収支決算書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月 31日

特別会計財産目録

1. 収入の部

(単位:円)

項 目	予算額	決算額	比較増減	摘 要
1. 繰入額	0	0	0	
2. 預金利息	500	68	△ 432	
3. 賛助寄付収入	200,000	255,000	55,000	賛助寄付金
計	200,500	255,068	54,568	

2. 支出の部

(単位:円)

項 目	予算額	決算額	比較増減	摘 要
1. 賛助寄付諸経費	150,000	124,127	△ 25,873	賛助寄付金(会費収入)
2. 一般会計繰入金	0	0	0	
計	150,000	124,127	△ 25,873	

3. 特別積立金累計額

6,180,288 円

1. 預貯金

(単位:円)

種 別	金 額	金融機関名等	摘 要
現 金	633	現金手許有高	
定期預金	4,112,150	三菱UFJ銀行・高田馬場支店	
振替預金	2,067,505	東京海上保安	
計	6,180,288		

上記の通り報告します。 令和4年4月9日

東京富士大学校友会・会長 森 川 昇

上記監査の結果相違ないことを認めます。

令和4年4月20日

会計監事 清水かほろ

同 松原あさ

令和4年度 東京富士大学校友会一般会計収支予算書(案)

自 令和 4年 4月 1日
至 令和 5年 3月 31日 (単位:円)

1. 収入の部

項 目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
1. 前年度繰越金	3,304,554	2,634,183	670,371	前年度繰越金
2. 入会金	890,000	745,000	145,000	入会金 @5,000×178名
3. 会 費	890,000	745,000	145,000	会費 @5,000×178名
4. 特別会計繰戻金	0	0	0	
5. 雑収入	100,010	100,010	0	
(1) 預金利息	10	10	0	
(2) その他	100,000	100,000	0	御祝金等
計	5,184,564	4,224,193	960,371	

2. 支出の部

(単位:円)

項 目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
1. 総務費				
(1) 会議費	300,000	300,000	0	総会、理事会、委員会等
(2) 事務費	30,000	30,000	0	
(3) 通信費	400,000	400,000	0	総会通知等
(4) 印刷費	200,000	200,000	0	総会関連印刷費
(5) 備品費	0	0	0	
(6) 慶弔費	100,000	100,000	0	卒業祝金 等
(7) 入会記念品費	0	0	0	
総務費支出計	1,030,000	1,030,000	0	
2. 事業費				
(1) 研究会費	100,000	100,000	0	東京富士祭
(2) 会報作成費	800,000	800,000	0	『雄峯』第61号制作費
(3) 会員名簿作成費	60,000	60,000	0	会員名簿メンテナンス
(4) 通信費	60,000	60,000	0	研究会案内 他
事業費支出計	1,020,000	1,020,000	0	
3. 助成金				
(1) 支部活動助成金	60,000	60,000	0	福島県支部・岩手県支部
(2) 支会活動助成金	80,000	80,000	0	少林寺雄峯会・雄峯MGT研究会・会計人会
(2) 学生活動賛助金	50,000	50,000	0	東京富士祭
助成金支出計	190,000	190,000	0	
4. 予備費	2,944,564	1,984,193	960,371	
支出の部合計	5,184,564	4,224,193	960,371	
次年度繰越金	0	0	0	
計	5,184,564	4,224,193	960,371	

令和4年度校友会特別会計収支予算書(案)

自 令和 4年 4月 1日
至 令和 5年 3月 31日

1. 収入の部

(単位:円)

項 目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
1. 繰入額	0	0	0	
2. 預金利息	500	1,000	△ 500	
3. 賛助寄付収入	200,000	200,000	0	
計	200,500	201,000	△ 500	

2. 支出の部

(単位:円)

項 目	今年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
1. 賛助寄付諸経費	150,000	150,000	0	
2. 一般会計繰入金	0	0	0	
計	150,000	150,000	0	

3. 特別積立金累計額

6,230,788円

令和3年度 東京富士大学校友会一般会計収支決算書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月 31日 (単位:円)

1. 収入の部

項 目	予算額	決算額	比較増減	摘 要
1. 前年度繰越金	2,634,183	2,634,183	0	前年度繰越金
2. 入会金	745,000	755,000	10,000	入会金 @5000×151名
3. 会 費	745,000	755,000	10,000	会費 @5000×151名
4. 特別会計繰戻金	0	0	0	
5. 雑収入	100,010	20,026	△ 79,984	
(1) 預金利息	10	26	16	
(2) その他	100,000	20,000	△ 80,000	寄付金
計	4,224,193	4,164,209	△ 59,984	

2. 支出の部

(単位:円)

項 目	予算額	決算額	比較増減	摘 要
1. 総務費				
(1) 会議費	300,000	93,337	△ 206,663	総会、理事会、委員会等
(2) 事務費	30,000	3,865	△ 26,135	
(3) 通信費	400,000	52,796	△ 347,204	総会通知等
(4) 印刷費	200,000	56,005	△ 143,995	総会関連印刷費他
(5) 備品費	0	0	0	
(6) 慶弔費	100,000	0	△ 100,000	お祝金、ご霊前、ご仏前
(7) 入会記念品費	0	0	0	
総務費支出計	1,030,000	206,003	△ 823,997	
2. 事業費				
(1) 研究会費	100,000	0	△ 100,000	東京富士祭 関連費用
(2) 会報作成費	800,000	503,508	△ 296,492	『雄峯』第60号制作費用
(3) 会員名簿作成費	60,000	60,000	0	会員名簿メンテナンス
(4) 通信費	60,000	30,144	△ 29,856	研究会案内等
事業費支出計	1,020,000	593,652	△ 426,348	
3. 助成金				
(1) 支部活動助成金	60,000	0	△ 60,000	岩手県支部・福島県支部
(2) 支会活動助成金	80,000	60,000	△ 20,000	少林寺雄峯会・雄峯MGT研究会・会計人会
(3) 学生活動賛助金	50,000	0	△ 50,000	東京富士祭賛助金
助成金支出計	190,000	60,000	△ 130,000	
4. 予備費	1,984,193	0	△ 1,984,193	
支出の部合計	4,224,193	859,655	△ 3,364,538	
次年度繰越金	0	3,304,554	3,304,554	
計	4,224,193	4,164,209	△ 59,984	

一般会計財産目録

1. 現金預金 等

令和4年3月31日現在
(単位:円)

種 別	金 額	金融機関名等
現 金	121,583	現金手許有高
普 通 預 金	3,518,251	三菱UFJ銀行・高田馬場支店
小 計	3,639,834	
未 払 金	335,280	㈱コーエー『雄峯』第60号印刷代
小 計	335,280	
差引正味財産	3,304,554	

2. 電話加入権

(単位:円)

電話番号	金 額	取得年月日
03 (3362) 4565	72,800	561.11

3. 備品

(単位:円)

品 名	数 量	取得金額	取得年月
書庫	1	14,000	S61.01
会議用長机	1	17,000	S61.01
椅子	10	18,900	S61.01
白板	1	23,400	S63.06
書類棚	2	36,000	H06.11
会議用テーブル	1	66,950	H08.09
椅子	10	82,400	H08.09
パソコン一式	1	855,352	H09.03
計	27	1,114,002	

上記の通り報告します。 令和4年4月9日現在

東京富士大学校友会・会長 森 川 昇

上記監査の結果相違ないことを認めます。

令和4年4月20日

会計監事 清水かほろ

同 松原あさ

東京富士大学 校友会会則

第1章 総則

第1条 (名称)

本会は、東京富士大学校友会と称する。

第2条 (本部の所在地)

本会は、本部を東京富士大学内に置く。

第3条 (目的)

本会は、会員相互の資質の向上と親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的とする。

第4条 (事業)

本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。

1. 各種研究会及び親睦会の開催
2. 会報の作成及び配布
3. 会員名簿の作成及び配布
4. その他必要な事項

第5条 (会員)

本会の会員は、次の者からなる。

1. 普通会員 東京富士大学及びその前身校の各卒業生、並びにこれらにかつて在学し、入会を希望する者
2. 特別会員 前項における現旧職員

第2章 役員

第6条 (役員)

一、本会に、次の役員を置く。

1. 会長 1名
 2. 副会長 5名以内
 3. 常任理事 20名以内
 4. 理事 50名以内
 5. 委員 各同期生より10名以内
 6. 会計監事 3名以内
 7. 事務局長 1名
- 二、前項の規定にかかわらず、各支部及び支会より委員若十名を置くことができる。

第7条 (役員の選出)

役員は、次により選出する。

1. 会長は、普通会員の中から総会において選出する
2. 委員は、各同期生、各支部及び支会の会員の互選による
3. 理事・会計監事は、委員会において委員の中から互選する。但し、会計監事は理事を兼ねることができる
4. 副会長・常任理事及び事務局長は、理事会の議を経て理事の中から会長が委嘱する。

第8条 (会長・副会長)

1. 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理する。

第9条 (常任理事・理事)

1. 常任理事は、会長及び副会長に協力し、会務を分担する。

第10条 (委員)

委員は、委員会を構成し、その会務を掌理する。

第11条 (会計監事)
会計監事は、会計事務を監査し、その結果を総会に報告する。

第12条 (事務局長)

事務局長は、事務を掌理する。

第13条 (役員の任期)

1. 役員の任期は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。

2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

第3章 機関

第14条 (委員会)

委員会は、次に掲げる事項を決定する。

1. 理事・会計監事の選任
2. 会務運営に関する基本的事項

第15条 (理事会)

一、理事会は、会長及び理事をもって組織する。

二、理事会は、次に掲げる事項を決定する。

1. 総会及び委員会に提出すべき議案
2. 会務の執行に関する事項
3. 総会の決議事項であつても、特別に緊急を要するために止むを得ない事項。但し、第3項の決議事項は、次の総会で承認を得なければならぬ。

三、理事会は、会長が招集し、議長は出席者の中から互選する。議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第16条 (総会)

定期総会は、毎年6月とし、臨時総会を必要とする場合は、理事会の議を経て開催することができる。

第17条 (招集)

総会の招集は、会長がこれを行い、会日の1週間前までに、日時・場所及び議案を記載した書面により、会員にその通知をしなければならぬ。

第18条 (議長)

総会の議長は、出席者の中から互選する。

第19条 (議決の要件)
総会の議決は、総会出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第20条 (委任による議決権の行使)

1. 会員で総会に出席することができない者は、あらかじめ議案について賛否の意見を明らかにした書面をもって、出席する会員に委任して、その議決権を行使することができる。

2. 前項の規定により議決権を行使した議決の数は、前条の規定による出席者に算入する。

第21条 (総会で決定すべき事項)

1. 事業報告及び事業計画の承認
2. 予算及び決算の承認
3. 会長の選出
4. 本会の重要な財産の取得及び処分に関する事項
5. 本会会則の変更
6. その他会務に関する重要事項

第22条 (議事の制限)

総会においては、第21条の議案以外の事項を決定することができない。

第23条 (事務局)

1. 本会に事務局を置く。

2. 事務局は、細則で定めるところにより事務を処理する。

3. 会長は、事務局員若干名を委嘱することができる。

第24条 (名譽会長)

1. 本会に名譽会長を置くことができる。

2. 名譽会長は、会長が総会の承認を得て委嘱する。

3. 名譽会長は、理事会及び委員会に出席して意見を述べることができる。

4. 名譽会長の委嘱期間は、第13条の規定を準用する。

第25条 (顧問、相談役及び参予)

1. 本会に顧問、相談役及び参予を置くことができる。

2. 顧問、相談役及び参予は、本会に特別の功績があつた者のうちから、理事会の決議を経て会長が委嘱する。

3. 顧問、相談役及び参予は、理事会に出席して意見を述べることができる。

4. 顧問、相談役及び参予の委嘱期間は、第13条の規定を準用する。

第4章 会計

第26条 (入会金)

普通会員は、入会金五〇〇〇円を納入する。

第27条 (会費)

普通会員は、終身会費として五〇〇〇円を会費として納入する。

第28条 (臨時会費)

臨時に必要とする会費は、その都度、理事会の議を経て徴収することができる。

第29条 (会費等の不返還)

入会金・会費及び寄付金は、理由の如何に拘らず還付しない。

第30条 (経費)

本会の経費は、入会金・会費・寄付金、及びその他の収入をもつてこれに充てて。

第31条 (財産の管理)

本会の財産は、会長が管理する。

第32条 (予算の執行)

本会の予算の執行については、別に財務処理規定を定める。

第33条 (会計年度)

本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第5章 雑則

第34条 (届出の義務)

1. 会員は、その住所・氏名・就職場所等の変更があつた場合は、速やかに本部事務局まで届け出なければならない。

2. 前項の届出を怠つた場合、及び第27条の会費を納入しない場合は、本会よりの通知文書等の送達を省略しても、本会の責任とならない。

第35条 (細則)

本会の規定に別手続上の細則については、理事会の議を経て別に定めることができる。

付則 この会則は、昭和60年6月30日より実施する。

一部改正、平成11年6月19日施行。

一部改正、平成15年6月28日施行。

一部改正、平成16年6月24日施行。

一部改正、平成21年6月27日施行。

会務分掌等に関する規定

本会役員の分掌分担等に関する事項を、会則第35条の規定により、次のとおり定める。

第1条 常任理事会は、会長、副会長及び常任理事をもって構成し、理事会に提出すべき議案の決定並びに会務執行その他必要な事項について協議する。

2. 会則第15条第二項第3号の規定は、前項の場合に適用する。

第2条 本会の事務局に次の部を置き、常任理事(以下担当事務という)が分掌する。但し、副会長若しくは、常任理事会の議を経て会長が委嘱する理事が分掌することを妨げない。

一、総務部

二、事業部

三、組織部

第3条 総務部においては、委員会、理事会及び総会に関する事項並に財務処理に関する事項のほか、他の部に属さない一切の事務を処理する。

但し、前条に規定する事業部及び組織部において会務を行うことができない事由がある場合には、総務部において会務を行うことができる。

第4条 事業部においては、会則第4条の規定に基づき、各種研究会・法律・会計・簿記・経済経営等の各部門及び親睦会の開催、会報の作成及び配布、その他必要な事項を行い、本会の目的を達成する。

第5条 組織部においては、会員名簿の作成及び配布、会員の増大に処して、相互の有機的な交友関係を図るとともに支部及び支会を積極的に助成し、本会の基礎を強化する。

第6条 本会の事務局に事務局次長を置き、これに補佐させることができる。

2. 各部に部長を置き、部長はその会務を掌理する。

3. 事務局次長、各部の部長及び担当理事は常任理事会で協議して定める。

4. 会則第15条第二項第3号の規定は前項の場合に適用する。

第7条 本会の会議を開催した場合は、議事録を作成し、議長及び議長の指名する議事録署名人名が署名しなければならない。

2. 前項の議事録は、総務部において保存しなければならない。

第8条 本会は次の基準により支部及び支会を設置することができる。

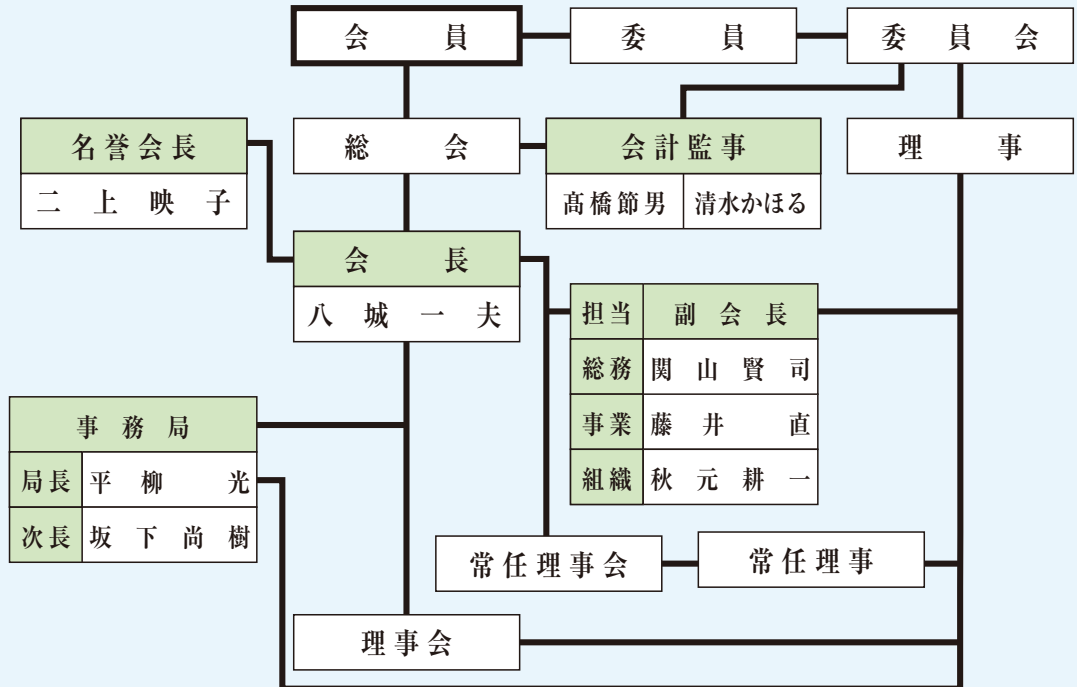
1. 各都道府県に支部を組織するとき。

2. 各域等の会員約30名以上で支会を組織するとき。

付則 この規定は昭和57年9月5日から実施する。

一部改正、平成18年6月24日施行。

令和4年度校友会事務組織・分担表



顧問			
倉	橋	清	文
石	井	末之進	
関			實
佐	藤	雄一郎	
若	狹	茂雄	
本	間	羚次	
森	川		昇

役 談 相		
谷	康	昌
北	爪	登

常 任 理 事		
総務部長	事業部長	組織部長
青 野 貴 礼	大 泉 浩 三	阿 部 國 茂
高 明 勝 利	三津石 真知子	田 野 美 佳
松 本 要 一	折 笠 信 子	持 丸 貴美子
中 鉢 けい子	田 中 千枝子	鴨 下 一
渡 邊 漸	小荷田 政 史	奥 山 飛雄馬
矢 部 友 里	曾 田 敏 彦	林 祐 二

理 事		
蟹 江 雅 子	千 葉 公 元	鈴 木 元
鈴 木 健 治	平 常 章	對 馬 昭 次
堀 越 宏 次	松 井 幸 和	平 田 友 孝
松 岡 めぐみ	久 下 賢 二	三 坂 功
関 根 康 雄	宇 宙 聡	大 畑 竹 宣
牧 野 真理子	岩 瀬 祐 之	長谷川 祥 平
落 合 恒 彦	土 橋 廣 義	岩 中 多 枝子
大 沼 洋 子	江 藤 かすみ	

(令和4年7月21日現在)

令和4年度賛助寄付の報告

寄付された校友の人数 26名

寄付の総口数 102口

校友の皆様には賛助寄付の

趣旨をご理解いただき、多く

の方々のご厚意をお受けする

ことが出来ました。

大変ありがとうございました。

た。

校友会を代表いたしまして

心よりお礼を申し上げます。

(校友会会長 八城一夫)

賛助寄付者一覧表

足達眞一

田村道世

阿部國茂

津野朋史

新井友和

椿 辰夫

飯塚敦子

友藤順夫

井畑一郎

中野信子

今井公子

西村静子

鵜飼泰秀

早坂幸一

木村光雄

平川佳子

草薙節子

寶達 清

河野寿美子

細谷悦功

佐々木敏雄

本田勝博

佐々木秀明

佐藤千明

(五十音順)

相馬利恵子

高瀬生子

東京富士大学校友会 第74回定期総会のお知らせ

日 時 令和5年6月17日(土)
総 会 午後1時00分～4時30分
(講演会も予定されています)
会 場 東京富士大学 本館1階 メディアホール
懇親会 午後5時30分～7時30分
(懇親会からでも参加できます)
会 場 新宿プリンスホテル 地下2階 プリンスマルシェ
今春卒業された方の会費は無料です

東京富士大学校友会 令和5年度研究会のお知らせ

日 時 令和5年10月28日(土)29日(日)予定
午後1時30分～3時30分
会 場 東京富士大学 五号館
演題・講師は未定

編集後記

●編集委員に携わり六年目になりました。▼「雄峯」六一号では、狭い範囲ですが記載予定の、原稿依頼回収整理を担当させていただきました。▼執筆の皆様には快く受けて頂きました。有難うございました。た、感謝を申し上げます。▼三月初めに埼玉県深谷市の渋沢栄一、記念館と生家（現在耐震改修工事中）を訪れ、雨夜譚の本で出会った「藍玉」とか藍葉農家の番付表（相撲番付とそっくり）等の見学ができました。▼隣地にある蕎麦屋で渋沢栄一が殊の外好きだという（ぼうとう）うどんを注文。食事場所畳間奥の掛軸には「天意重夕陽人間貴晚晴」と渋沢の自筆文言がありました。▼編集委員の皆様には貴重な時間を割いて頂き、且つ大変お疲れ様でした。

大泉浩三

●毎年編集会議の度、八城会長、平柳事務局長、藤井副会長今年は大泉事業部長に大変お世話になりました。▼令和四年東京富士祭にて「渋沢栄一の活躍を解く路」研究討論会が開催されました。▼私は少し難しいのではないかと懸念しましたが、活発な発言も多くて、盛大な研究討論会になったことを喜んでいます。▼コメントの皆様もありありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。▼編集の皆様お疲れ様です。

秋元耕一

●『日経』夕刊に宮城谷昌光の「諸葛亮」が載っています。三世紀の中国の三国志です。宮城谷氏の今回の孔明の魏延に対する扱いは、吉川英治のそれよりもよほど魏延の才能をよく見極めているように見

えて、その公平さに心暖まる想いです。▼ともかく、『雄峯』第六一号を発行することができましたのは、ご寄稿くださいました、会員の皆様の母校に対する想いと熱い志の御蔭と深くお礼申し上げます。▼学生課をはじめとしまして、何かと相談にに応じてくださり、励ましをいただきました大学当局の方々へ、深く感謝の気持ちを述べさせていただきます。▼新入会員の皆様のご多幸を、お祈り申し上げます。

藤井 直

●61号は、校友会の新役員とともに、東京富士祭の公開研究討論会のご報告をさせていただきます。ただこうというコンセプトをベースに取り組みしました▼渋沢栄一について造詣が深い藤井直副会長による、渋沢栄一の活躍をご披露させていただきます。

きました▼近頃は『雄峯』編集委員会のメンバーが高齢化しておりますので追加募集中です、フレッシュなOB・OGの参加が待たれます▼兎に角第61号はめでたく完成しました。ご寄稿いただいた皆様と編集委員の皆様感謝申し上げます。

八城一夫

「雄峯」第61号 編集委員会

委員長		藤井 直	
委員	青野 貴礼	秋元 耕一	
	鵜木 由美	大泉 浩三	
	北爪 登	田中 千枝子	
	平柳 光	三津石真知子	
	八城 一夫		

(五十音順)

雄 峯



TOKYO FUJI UNIVERSITY
東京富士大学校友会

雄 峯 第61号

令和5年3月17日 印 刷

令和5年3月21日 発 行

発行人 東京富士大学校友会
八城一夫

編集人 「雄峯」編集委員会

事務局 東京富士大学

学生支援部内

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 3-8-1

TEL. 03-3362-2252

印刷所 株式会社コーエー
